

# Southern Cross

# サザンクロス

Vol.61 2013.6

●編集発行  
 公益財団法人 郡山地域テクノポリス推進機構  
 郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会  
 〒963-0115 福島県郡山市南2丁目52番地 ビッグパレットふくしま3階  
 TEL (024)947-4400 FAX (024)947-4475

■郡山地域テクノポリス推進機構ホームページ <http://www.techno-media.net6.or.jp/>  
 ■インキュベーションセンターホームページ <http://www.monodukuri.net6.or.jp/>  
 ■Eメール【テクノポリス】 [techno@nm.net6.or.jp](mailto:techno@nm.net6.or.jp)  
 【ニューメディアコミュニティ】 [info@nm.net6.or.jp](mailto:info@nm.net6.or.jp)

郡山地域テクノポリスは、高度技術産業の集積による新事業創出を導く、東北のサザンクロス(南十字星)となることを目指します。



## ●特集

- ごあいさつ…………… P1  
 新生テクノポリスをめざして積極的にチャレンジ!  
 (公財)郡山地域テクノポリス推進機構 理事長 丹治一郎
- 特別寄稿…………… P2  
 日本大学工学部キャンパスでの除染活動の記録  
 日本大学 工学部長 出村克宣

- 郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議  
 全体会・交流会……………P10
- 産学官連携企業懇談会……………P10

- 戦略的基盤技術高度化支援事業  
 (サポイン事業)の継続実施……………P18
- 平成25年度  
 各種助成事業募集のお知らせ……………P19

## ●テクノトピック

- 平成25年 テクノポリス新春講演会 …… P3
- MEDTEC Japan 2013 …………… P3
- 第13回 産・学・官連携フォーラム …… P4
- RIT:地域間産業交流支援事業の報告 … P5-6
- Meister's College2012(マイスターズカレッジ2012)・ P7-8
- 郡山地域テクノポリスものづくり  
 インキュベーションセンター卒業企業等成果発表会… P9

## ●テクノナウ

- ものづくりインキュベーションセンターだより ……P11
- NUBIC(日本大学産官学連携知財センター)  
 郡山サテライトの開設……………P11
- 入居者審査委員会の開催状況……………P12
- 入居企業一覧……………P12
- IT交流プラザ活動報告……………P13
- 高度IT人材育成事業「ICTリーダー研修講座」…P14
- テクノ・ニューコメ ホームページリニューアル…P14
- アドホック研究会……………P15
- 平成24年度 各研究会活動状況報告…P16-18

- 平成25年度  
 各種助成事業募集のお知らせ……………P19
- 技術コーディネーター活動報告……………P20
- ふくしま復興 再生可能エネルギー  
 産業フェア2012……………P21
- メディカルクリエイションふくしま2012…P21
- こおりやまユニバーサルデザイン  
 ものづくりフェア2012……………P21

## ●テクノインフォメーション

- 平成24年度 理事会等の開催報告……………P22
- 平成25年度の主な事業・イベント……………P22
- 役員・職員等の紹介……………P23

# 新生テクノポリスをめざして 積極的にチャレンジ!



公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構  
理事長 丹治 一郎

東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所の事故から早くも2年あまりが経過しました。しかしながら、本県は、いまだ15万人余の方々が県内外で避難生活を余儀なくされるなど、依然として厳しい状況が続いており、とりわけ、原発事故による放射能汚染の被害は深刻で、農林水産業や観光業に止まらず製造業を含むあらゆる産業に及んでおり、経済活動を直撃しています。

こうした状況下、国においては、復興庁の「福島復興再生総局」に権限を集中させ、「福島復興再生特別措置法」に基づいて、国直轄の除染事業や生活再建・産業復興に向けた取組みが進められつつあり、また、福島県においても「復興計画」に基づいて、「中小企業等グループ施設等復旧整備補助金」や「ふくしま産業復興企業立地補助金」を活用しつつ、復興に向けた各種事業が進められております。

特に、産業復興のための重点プロジェクトとして、「再生可能エネルギー関連産業の育成・集積」と「医療関連産業の育成・集積」の二つが掲げられました。

これを具体的に推進するため、郡山市に、再生可能エネルギーを担当する「独立行政法人・産業技術総合研究所」の立地と医療機器等の開発を促進する「医療機器開発・安全性評価センター(仮称)」を整備することが、相次いで決定されました。

当財団としても、これら二分野については数年前から積極的に取り組んでおり、このような研究機関が圏域の中核部に立地することは、大いなる前進であると歓迎します。ただし、これらの機関が地元企業にとって、扱いやすいものとなるよう、県とも十分協議しながら、圏域中小製造業の復興・再生に結びつけていく必要があると考えております。

こうした新しい動きに対応するため、当財団は、圏域中小製造業への具体的な支援のあり方を示す

独自のビジョンを早急に立案することが必要であると考え、昨年度から福島大学の地域創造支援センターに所属する教授グループに「中・長期ビジョン」の策定に係る調査・研究を委託中であります。

現在、圏域製造業の数十社について、ヒアリングを軸にした実態調査や分析が行われ、さらに東京や大阪等の元気な中小製造業の先進事例等も参考にした施策展開の在り方を、提案・提言書という形で、今年度の早い時期に報告していただく予定です。

この報告書をベースに、委員会を設置し、今年度中に、新たな「テクノポリス中・長期ビジョン」を策定し、新生テクノポリスとして今後の財団運営に当たって参る所存であります。

ご承知のとおり、当財団は、あの震災が起きた平成23年3月に、設立25周年を迎えました。長きに亘って、圏域における中小製造業の支援機関としての役割を担えたのは、ものづくりを中心に活躍する優秀な企業群の存在であり、アライアンス形成会議やアドホック研究会に参画する企業の研究開発への取り組みや数多くの事業化の積重ねであります。

また、当財団が平成18年度に県内で初めてのものづくり起業支援施設として日本大学工学部敷地内に開設した「インキュベーションセンター」の存在も大きく、新技術や新事業創出の場として、その役割は益々高まっております。

今後も、当財団は、圏域中小製造業群の更なる発展に向け、これまで以上に産学官の連携を強力に推進しながら、「圏域企業の技術力の強化」やそれを担う「ものづくり人材の育成」を図るとともに、インキュベーションセンターを拠点に「新事業の創出や研究開発の支援」を行う等、必要な事業を積極的に展開して参る所存ですので、関係各位のなご支援、ご協力をお願い申し上げます。



# 日本大学工学部キャンパスでの 除染活動の記録



日本大学 工学部長 出村 克宣

日本大学工学部キャンパスにおいて、構内の空間放射線量率の測定を行いながら除染活動に取り組んできた。空間放射線量率の測定は構内の主要な箇所ですべて毎日行っており、平成23年4月7日以降、その測定データをホームページ上で公開している。約2年間にわたるキャンパス内の空間放射線量率の変化とこれまで取り組んできた除染作業との関わりを整理し、その概要を紹介する。

平成23年4月19日の文部科学省からの「福島県内の学校等の校舎・校庭等の利用判断における暫定的考え方について」の通知において、「校庭・園庭で $3.8\mu\text{Sv/h}$ 未満の空間線量率が測定された学校等については、校舎・校庭等を平常どおり利用をして差し支えない」という方針が示された。

平成23年4月の時点で、工学部キャンパス内の空間放射線量率は $3.8\mu\text{Sv/h}$ 未満であった。しかし、教育環境整備の上から、空間放射線量率はできるだけ低減すべきであるとの認識のもと、様々な除染作業を実施することとした。

また、平成23年12月14日には、「汚染廃棄物対策地域の指定の要件等を定める省令」において、「汚染状況重点調査地域内の事故由来放射性物質による環境の汚染の状況について重点的に調査測定することが必要な地域である汚染状況重点調査地域の指定の要件を、1時間当たり $0.23$ マイクロシーベルト以上の放射線量とする」ことが示された。そこで、除染作業後のキャンパス内空間放射線量率の指標を $0.23\mu\text{Sv/h}$ とし、各除染作業の評価を重ねてきた。

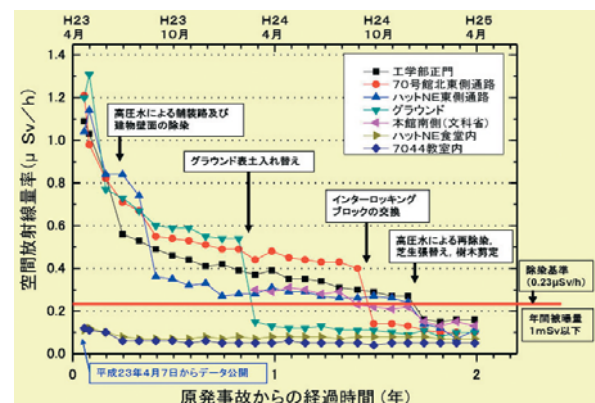
なお、一般に、ある地点で測定される空間放射線の量は、地面やその周辺の植栽・構築物などに付着した放射性物質と太陽から放射される放射線量に依存する。原発事故によって問題視されているのは前者によるものであり、除染作業は、空間放射線量率の測定地点を含む周辺の地表面とその地表面上に存在する植栽・構築物などの立体物外表面のす

べてを対象にする必要がある。

一方、土壌中の放射性物質の測定結果によれば、地表面に付着した放射性物質は降雨により土壌中に若干移動し、地表面下数cmの土壌相に固着する傾向がある。しかし、アスファルト舗装面や建物表面、芝生、樹木などに付着した放射性物質は降雨により容易に洗浄されることはない。

以上のような観点に立ち、構内の除染作業を実施した。図には、原発事故からの経過時間と工学部構内の空間放射線量率の関係を示す。平成23年6月～8月に実施した高圧水による舗装路及び建物壁面の除染の結果、空間放射線量率は1/2以下に低減されている。しかし、その値は前述の指標値を上回っていたことから、平成24年12月～平成25年3月の期間に再度高圧水による除染作業を行い、空間放射線量率の低減を図った。また、グラウンドの表土の入れ替え並びにインターロッキングブロックの交換、芝生の張替え及び樹木剪定により、それらの除染作業の効果が明確に表れ、すべての測定地点における空間放射線量率を指標値以下とすることができた。更に、除染作業後において、図に示した地点を含む構内63地点での空間放射線量率は $0.23\mu\text{Sv/h}$ を下回っていることを確認している。

本稿で述べた記録が、様々な地域で実施されている除染活動の一助となれば幸いである。



原発事故からの経過時間と空間放射線量率の関係

## 平成25年 テクノポリス新春講演会

「21世紀 残るものづくり 消えるモノづくり」～人が輝く組織づくり～

**開催日** 平成25年2月1日(金)  
**場所** ビッグパレットふくしま 3階「中会議室A」  
**参加** 約70名

**主催** (公財)郡山地域テクノポリス推進機構  
**共催** 郡山地域テクノポリス市町村協議会/郡山地域テクノポリス推進協議会/郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会

講師の大久保 寛司氏は日本アイ・ビー・エムに勤務され、社内改革に取り組み、巨人IBMを顧客志向の体質に変える実績を上げられました。

その経験から語られる「人と経営のあるべき姿」は、相手の立場に立った明快で、分かりやすい説明で、現在の問題点を鋭くついたものでした。

大久保先生の講演は、「当たり前」のことを「正しく実行できる」組織、「お互いを思いやり、人を人として大事にする」「物事を相手側から見る」「気づき大切」「協力して助け合う」「雰囲気の良い職場」「職場力」「不可能を可能にする」「絶対にあきらめない」「人が生き生きと輝いている」といった魅力的な言葉が次々と飛び出し、そのたびに、私たちが普段忘れてしまっていることを「ハッ」と気づかせてくれるものでした。今後、私たちが生きて行く上でキーワードとなるものばかりでした。

仕事をするとすることは「あるべき姿を語るのではなく、あるべき姿を実現すること」「人材の育成が目的」このことの大切さを、再認識させられる講演でした。



### 講師

人と経営研究所 所長 大久保 寛司 氏

### プロフィール

- 1949年3月生まれ
- 横浜市立大学商学部卒業
- 1973年、日本アイ・ビー・エム入社
- 中部支社を中心に営業現場にて活躍
- 1992年、本社の業務改革推進本部MDQ(マーケット・ドリブン・クオリティ)推進担当
- 1998年、カスタマー・サティスファクション担当(お客様重視の経営革新、社員の意識改革の促進に従事し、社長が委員長を務めるお客様満足度向上委員会の事務局長及び社内アセスメント、方針管理責任者として辣腕を振るう)
- 2000年4月、退社「人と経営研究所」を設立、所長に就任。



平成25年  
テクノポリス新春講演会  
(講演風景)

### 講演内容

- 真の経営力が問われる時代
- 変化する市場、顧客への対応
- お客様を理解していますか
- やる気を引き出し、能力を伸ばす
- お客様重視の社風を創る
- 経営理念の実現に向けたリーダーシップ

## NITI-ON MEDTEC Japan 2013



平成25年4月24日・25日に東京ビックサイトにおいてMEDTEC Japan 2013が開催されましたが、インキュベーションセンターに入居している(株)ニチオンのTMJクリップ鉗子システムが第2回MEDTECイノベーション大賞の候補に選ばれました。同会場で行われた第2次審査では、(株)ニチオン担当者からのプレゼンの後、審査員による審査が行われました。

惜しくも大賞とはなりませんでした。名譽ある奨励賞を受賞されました。おめでとうございます。

(注)イノベーション大賞は、日本発世界初の医療機器のために積極的に開発に挑戦する企業を表彰し、後押しする世論を喚起することで、さらなる医療機器開発の活性化することを目的に設けられた賞。



### 【TMJクリップ鉗子システム】

腹腔鏡手術において挿入器具の削減と操作性の向上、及び術者のストレス低減を目的に開発されたシステム。



各賞受賞企業の代表者と審査員

### (株)ニチオン

本社：千葉県船橋市栄町2-12-4  
 代表取締役社長：本田 宏志  
 業種：医療機器の製造販売

平成23年8月22日から  
 当センター起業支援室6に入居中  
 (2年目)



MEDTEC Japan 2013会場



(株)ニチオン担当者プレゼンテーション



(株)ニチオンの受賞風景



# 第13回 産・学・官連携フォーラム

**開催日** 平成24年11月15日(木)  
**場所** 日本大学工学部50周年記念館(ハットNE)大講堂  
**参加** 220名

**主催** (公財)郡山地域テクノポリス推進機構  
 日本大学工学部工学研究所  
 郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会

去る11月15日、日本大学工学部50周年記念館において、今年度で13回目を迎えた「産・学・官連携フォーラム」を開催しました。

まず始めに、主催者挨拶として、公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構 理事長 丹治 一郎(代理 常務理事 熊田正治)、日本大学工学部長 出村 克宣 氏がそれぞれ挨拶しました。

県では「福島県再生可能エネルギー推進ビジョン」を平成24年3月に策定し、その中で2040年頃を目途に、県内のエネルギー需要量の100%以上に相当する量のエネルギーを再生可能エネルギーで生み出すことを目指しています。

そのようなことから、今回は「再生可能エネルギー技術を基軸とするふくしま復興のシナリオ」と題し、基調講演として地元企業で取り組んでいる再生可能エネルギーの事例報告と、一般講演では、産学官それぞれの立場から、環境技術を産業戦略とした講演が行われました。



主催者挨拶 (公財)郡山地域テクノポリス推進機構 理事長 丹治 一郎(代理 常務理事 熊田正治)



主催者挨拶 日本大学工学部長 出村 克宣 氏



基調講演

**テーマ**

福島事業所の再生可能エネルギーへの取り組み

**講師**

日本工営株式会社  
 電力事業本部 福島事業所  
 システム事業部長 若林 建 氏



一般講演

**テーマ**

革新的エネルギー・環境戦略と地域イノベーション戦略 ~エネルギー自立・自然共生型住環境の研究開発の方向性~

**講師**

日本大学工学部機械工学科  
 特任教授 小熊 正人 氏



**テーマ**

フクシマの復興に向けた『グリーン・イノベーション戦略』の視座と処方箋

**講師**

福島ミドリ安全株式会社  
 代表取締役社長 白石 昇央 氏



**テーマ**

産・学・官の連携によるふくしまの自立した復興を目指して ~ロハス工学の研究領域とロードマップ~

**講師**

日本大学工学部 土木工学科  
 教授 岩城 一郎 氏





## RIT:地域間産業交流支援事業の報告

### 「福島県 郡山地域」と「韓国 江原道 原州地域」との医療福祉関連機器開発プロジェクトの推進

**事業実施主体**【日本側】公益財団法人 郡山地域テクノポリス推進機構  
【韓国側】財団法人 原州医療機器テクノハレー

**事業支援体** 独立行政法人 日本貿易振興機構(JETRO)



### 原州市で建設中の企業都市「MediPolis」 【医療関連産業の集積新都心(敷地150万坪)】



MediPolisの中に2013年9月にオープンする(財)原州医療機器テクノハレーの新館「原州先端医療機器Multicomplex Center」落成式は2013年9月5日

「(公財)郡山地域テクノポリス推進機構」は、平成21年(2009年)11月に韓国 江原道 原州の「(財)原州医療機器テクノハレー」との間で『医療福祉機器開発相互協力協定』を締結して以来、JETROの中小企業向け産業交流支援事業の一つである「RIT(Regional Industry Tie-up program):地域間産業交流支援事業」による支援と、その活用を通して、「郡山地域テクノポリス圏域及び近隣産業集積地の中小企業群」と「韓国 江原道 原州地域の医療機器産業クラスター」とで医療福祉関連機器の共同研究開発や製品化・市場化を目的に、JETROの専門家派遣による現地調査、日韓の企業双方での技術研究会の実施、相互の企業視察や商談の促進などを通して、両地域の連携・発展を念頭に、医療福祉関連機器創出の分野に力点を置いた多角的な産業

交流支援活動を行っています。

両地域の企業が事業を展開していく中、「3.11 東日本大震災」発災による騒乱に遭遇しつつも、この事業は、途切れることなく、それまで培ってきた両地域間の相互信頼関係と絆で、協力関係が更に力強く持続され、活発化されました。

平成24年度(2012年)も 郡山と原州の両地域で医療福祉機器開発に係る技術開発協議や啓発セミナー/シンポジウムが開催され、医療福祉機器関連の展示会に出展し商談会に臨みました。韓国側の提案により「日韓共同で新たな医療機器開発プロジェクトを立ち上げるための公式調査」業務の実施も行うなど、医療福祉機器関連産業創出のため更なる地域間連携と持続力で、郡山と原州の両企業支援機構はその発展に努力しています。

■**2012年4月**:この事業の韓国側事業実施体である「(財)原州医療機器テクノハレー」と「平成24年度RIT:地域間産業交流支援事業」の実施工程・内容/実施方法等について協議・確認をするとともに、原州医療機器産業クラスターに関連する江原道の企業支援機関や、原州に所在する多くの企業を訪問し医療福祉関連機器開発の現況を調査した。

■**2012年5月**:テクノポリス推進機構は「(財)原州医療機器テクノハレー」から「江原広域経済圏先導産業成果報告展示会・国際カンファレンス」に招聘され、郡山地域と原州地域の「地域間産業交流事業」の中間成果報告と今後の相互発展計画について講演を行い、江原道や原州市の行政機関や原州に所在する企業と交流を深めた。

■**2012年6月**:「(財)原州医療機器テクノハレー」と原州医療機器産業クラスターの企業により、本事業推進に係る原州の企業の最新動向や機器開発に係るneeds/seedsの調査分析がなされ、『基礎調査』報告書として取り纏められ報告されてきた。

■**2012年7月**:「(公財)郡山地域テクノポリス推進機構と日本大学工学部工学研究所の主催による平成24年度「第1回 医療・福祉機器等関連新事業創出研究会」に「原州医療機器産業クラスターの5企業: Daeyang Medical株式会社、Korea Dolki株式会社、Taeyeong Medical株式会社、株式会社CARETek、株式会社Medical Supply」と「江原道庁(投資誘致事業本部:

リュウ トンギ 柳 德基専門委員」及び「ヨソバク ソンビン パク ソンビン 延世大学医工学部 朴 聖淋博士」を招聘し、企業の技術開発状況と江原道の産業紹介及び原州の医療福祉関連機器開発計画についてシンポジウムを実施した。



江原広域経済圏先導産業成果報告展示会 開幕式



江原広域経済圏先導産業成果報告会 国際シンポジウムで講演



(財)原州医療機器テクノハレーへの訪問と事業推進に係る協議



江原道庁 産業経済局への訪問・協議



延世大学医学部付属臨床試験センター(開発機器・薬品の臨床試験)の視察



- **2012年8月**：6月の『基礎調査』と7月の『研究会』の内容及び郡山地域の医療福祉機器関連産業の機器開発現況を踏まえ、JETROの専門家が（財）原州医療機器テクノバレーと原州医療機器産業クラスターの企業及び江原道の企業支援機関を訪問し、技術開発協議や技術のマッチング可能性調査を実施。また今後の相互発展計画や日韓双方で開催される医療福祉機器関連展示会への出展に関する協議及び建設中の企業都市(MediPolis)を視察した。
- **2012年9月**：原州で開催された「第7回 江原医療機器展示会 GMES2012」に郡山地域の医療福祉機器関連企業2社[ひさき設計株式会社(リハビリゴールと携帯型放射線量測定器)、有限会社マサル精機(Sシュミレーション背骨測定器)]が出展し技術協議や商談を展開。共同開発事業が促進された。また同行された(公財)郡山地域テクノポリス推進機構アライアンス会議会長、メディカルクリエーションふくしま実行委員会委員長等は原州の医療機器専用工業団地「東華先端医療機器工業団地」や、「延世大学医学部付属臨床試験センター」、「企業都市(MediPolis)」と「原州先端医療機器マルチ・コンプレックスセンター」及び「革新都市(Innovation City)」を視察した。
- **2012年11月**：郡山で開催された「第8回 医療機器設計・製造展示会&最新技術セミナー：メディカルクリエーションふくしま2012」に原州医療機器産業クラスターの企業5社[CARETEK株式会社(ビデオ式喉頭内視鏡)、Korea Dolki株式会社(サリサイド消毒器)、Siwon株式会社(歯科インプラント・ブラッシュ)、Kairos株式会社(ニキピ治療器)、Daeyang Medical株式会社(リハビリ機器)]を招聘。同展示会に出展し商談を展開した。また同展示会会場セミナーにて「江原発展研究院 金 石中博士」が「日韓共同医療機器開発に向けた取り組み」と題して講演を行った。
- **2012年12月**：(財)原州医療機器テクノバレーを訪問し、平成24年度実施事業の内容についてレビューを行うとともに、翌25年度の産業交流事業の日程と日韓双方の事業実施に係る計画内容を協議し取り極めた。

■ **RIT**：地域間産業交流支援事業の実施で得られた成果として、原州と郡山 両地域の企業間で行った商談件数は67件、また次のように「技術開発協定」を取り交わし事業を推進している企業等が6件、今後の成約が見込まれる企業件数が19件となっています。これらの企業は現在、製品の完成化、市場化に向け開発促進中です。

- (1) **医療福祉機器開発相互技術協力協定書 締結**
  - ・「(公財)郡山地域テクノポリス推進機構」と「(財)原州医療機器テクノバレー」
- (2) **技術開発協定 締結**
  - ・「有限会社マサル精機」と「株式会社IM Healthcare」
  - ・「株式会社住田光学カラス」と「CARETEK株式会社」
  - ・「株式会社金子製作所」と「CARETEK株式会社」
  - ・「乾マタニティクリニック」と「株式会社Medical Supply」
  - ・「有限会社マサル精機」と「株式会社Daeyang Medical」

平成22年(2010年)4月から独立行政法人 日本貿易振興機構(JETRO)の「RIT：地域間産業交流支援事業」による支援は1年間の追加延長期間を含め平成24年度(2012年)末までの、3年間の事業として実施され終了しました。

平成25年度(2013年)以降は、(公財)郡山地域テクノポリス推進機構と、(財)原州医療機器テクノバレーが核となって両地域の医療福祉機器関連産業や異業種の皆様のご協力のもと「RIA (Regional Industry Alliance program)：地域間産業交流事業」として地域産業の相互協力・グローバル化を目指して継続推進していきます。



(財)原州医療機器テクノバレー、江原道庁、原州市庁の郡山テクノポリスへの訪問

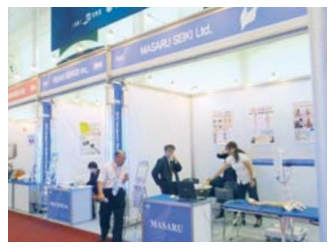


(財)原州医療機器テクノバレー、江原道庁、原州市庁の福島県庁への表敬訪問

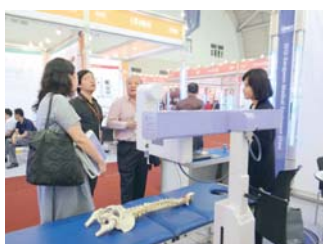
## 第7回 江原医療機器展示会 GMES2012



江原医療機器展示会GMES2012 開会式参加



江原医療機器展示会GMES2012 福島／郡山企業の出展(1)



同展示会での福島／郡山企業の出展(2)



同展示会での福島／郡山企業の出展(3)

## 第8回 メディカルクリエーションふくしま2012



メディカルクリエーションふくしま2012 原州医療機器産業クラスターの出展(1)



メディカルクリエーションふくしま2012 原州医療機器産業クラスターの出展(2)



メディカルクリエーションふくしま2012 最新技術セミナーにおける[韓国医療機器セミナー]で講演

# 「Meister's College 2012」 (マイスターズ・カレッジ2012)

人材育成事業

人材育成事業

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構では、ものづくり中小企業の中核となる技術者の方々を対象に、日本大学工学部・福島県立テクノアカデミー郡山等との産学連携により、基盤的製造技術の高度化を図る人材育成事業として、平成18年度から継続開催している「Meister's College」(マイスターズ・カレッジ)を実施しました。

今年度は、製造技術の知識と素材加工・組み立てなどの精密加工技術習得のほか、県復興計画の重点プロジェクトに対応した再生可能エネルギーと医療関連産業集積に関する特別講義を「先端加工技術コース」で新たに取り入れ実施しました。また、マシニングセンタのプログラミングや加工技術を習得する「マシニングセンタコース」と、技術力・経営力の強化のための「MOT(ものづくり技術経営学)」の3コースを設け実施しました。

	先端加工技術コース	マシニングセンタコース	MOTコース
受講対象者	製造業企業の技術者等	製造業企業の技術者等	製造業企業の管理者・工場長等
受講者数	29名	11名	21名
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>製造技術等に関する基礎から専門分野までの多様な知識の習得</li> <li>素材加工、組立等の精密加工技術の習得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マシニングセンタのプログラミング及び加工技術等の習得(使用するマシニングセンタは、(株)森精機製作所製)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中小企業の技術力・経営力の強化のための短期集中セミナー</li> </ul>
構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>「座学」中心の全16テーマで構成</li> <li>うち2テーマは福島県復興計画重点プロジェクト(再生可能エネルギー推進と医療関連産業集積)に関する研修</li> <li>うち4テーマは「座学」と「実習」が密接にリンクした実践的な研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マシニングセンタに係るプログラム(3次元CAD/CAM)の入門編</li> <li>マシニングセンタに係る工具(刃物)の知識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>MOT(ものづくり技術経営学)</li> <li>少人数による短期集中講座</li> </ul>
特別講義	4時間(2時間×2回)	◆3次元CAD/CAM □プログラミング12時間(3時間×4回) □マシニング操作 4時間(2時間×2回)	3時間20分(1日間)
座学研修	28時間(2時間×14回)		
実技研修	12時間(3時間×4回)	◆工具(刃物)の知識 6時間(2時間×3回)	
研修期間	平成24年10月4日～12月18日 毎週火曜日又は木曜日 午後6時～	平成24年10月4日～12月18日 毎週水曜日又は金曜日 午後6時～	平成25年2月14日
研修場所	郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター 日本大学工学部	郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター 福島県立テクノアカデミー 郡山	郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター
講師	日本大学工学部教授等(11名)	福島県立テクノアカデミー 郡山 教務員(2名) 民間企業(3名)	立命館大学大学院 テクノロジーマネジメント科 教授(1名)

## 先端加工技術コース

「先端加工技術コース」は、日本大学工学部の教授等を講師に迎え、期間中の延べ22日間(開講式、特別講義(2日)、座学(14日)、実習(4日)、工場見学・閉講式)にわたり、製造技術等に関する基礎から専門分野までの多様な知識と要素技術の研修を行いました。

全16テーマ中、特別講義を2時間で2テーマ、座学を2時間うち4テーマについては、座学と密接に関連した実習を3時間行ったほか、品質管理、生産管理及び労働安全衛生まで合計44時間の研修プログラムを受講しました。特に、実習では各受講生が実際に大学の研究室に設置している機械操作などを体験しました。

受講者アンケートでは、「幅広い様々なテーマについて学べたので良かった。」「製造・加工技術に関する知識を習得する良い機会だった。」「特に、実習を充実させた内容を研修したい。」などの声も寄せられました。

<p><b>1 座学</b> 高压洗浄とウォータージェット切断</p> <p>【講師】 日本大学工学部 機械工学科 教授 清水 誠二</p>	<p><b>1 実習</b> 扇状ジェットの高速度ビデオ観察とアプレシブジェット切断</p> <p>【講師】 日本大学工学部 機械工学科 教授 清水 誠二</p>	<p><b>2 特別講義</b> 「水」からみた省資源・省エネルギー型のまちづくりとは?</p> <p>【講師】 日本大学工学部 土木工学科 准教授 中野 和典</p>	<p><b>3 座学</b> 工作機械の多軸化と性能評価</p> <p>【講師】 日本大学工学部 機械工学科 准教授 齋藤 明徳</p>	<p><b>3 実習</b> マシニングセンタの精度検査</p> <p>【講師】 日本大学工学部 機械工学科 准教授 齋藤 明徳</p>	<p><b>4 座学</b> 複合材料の開発</p> <p>【講師】 日本大学工学部 機械工学科 助教 中村 理恵</p>	<p><b>4 実習</b> 複合材料の作製と材料試験</p> <p>【講師】 日本大学工学部 機械工学科 助教 中村 理恵</p>
<p><b>5 座学</b> ロボット工学・制御工学～機械システムの実時間制御と基礎制御</p> <p>【講師】 日本大学工学部 機械工学科 助教 遠藤 央</p>	<p><b>5 実習</b> 基礎制御の実験～倒立振り子実験装置への実時間制御の適用</p> <p>【講師】 日本大学工学部 機械工学科 助教 遠藤 央</p>	<p><b>6 特別講義</b> 地域から始まる、新しい介護・医療のかたち</p> <p>【講師】 日本大学工学部 電気電子工学科 准教授 村山 嘉延</p>	<p><b>7 座学</b> トライボロジーー摩擦・摩耗・潤滑の世界ー</p> <p>【講師】 日本大学工学部 機械工学科 准教授 伊藤 耕祐</p>	<p><b>8 座学</b> 品質管理の基礎① QC7つ道具の理解と応用</p> <p>【講師】 永島経営技術相談室 中小企業診断士 永島 巖</p>	<p><b>9 座学</b> 品質管理の基礎② QC7つ道具の理解と応用 演習(1)</p> <p>【講師】 永島経営技術相談室 中小企業診断士 永島 巖</p>	<p><b>10 座学</b> 品質管理の基礎③ QC7つ道具の理解と応用 演習(2)</p> <p>【講師】 永島経営技術相談室 中小企業診断士 永島 巖</p>
<p><b>11 座学</b> 生産管理の概要～実践に向けて① 生産管理の対象の範囲の理解</p> <p>【講師】 元 林精器製造(株) 取締役 池浦 清一</p>	<p><b>12 座学</b> 生産管理の概要～実践に向けて② 生産管理と情報の実態</p> <p>【講師】 元 林精器製造(株) 取締役 池浦 清一</p>	<p><b>13 座学</b> 生産管理の概要～実践に向けて③ 生産現場における問題への対応</p> <p>【講師】 元 林精器製造(株) 取締役 池浦 清一</p>	<p><b>14 座学</b> 労働安全衛生① 企業経営と労働災害等の労務リスク</p> <p>【講師】 田部事務所 労働安全コンサルタント 田部 良夫</p>	<p><b>15 座学</b> 労働安全衛生② 災害防止のための安全活動とリスクアセスメント</p> <p>【講師】 田部事務所 労働安全コンサルタント 田部 良夫</p>	<p><b>16 座学</b> 労働安全衛生③ 健康管理とメンタルヘルス</p> <p>【講師】 田部事務所 労働安全コンサルタント 田部 良夫</p>	<p><b>工場見学</b> JUKI会津株式会社(喜多方市塩川町)</p> <p>開講式・交流会「マシニングセンタコース」と合同で実施</p>



先端加工技術コース(基調講演)



先端加工技術コース(①実習)



先端加工技術コース(②実習)



先端加工技術コース(③実習)



先端加工技術コース(④実習)



## マシニングセンタコース

「マシニングセンタコース」は、福島県立テクノアカデミー郡山の先生方と民間企業の方々を講師に迎え、期間中の延べ13日間(開講式、工場見学・閉講式含む)にわたり、研修を行いました。

まず、3時間×4日のカリキュラムにて、マシニングセンタに関する三次元CAD/CAMについて説明を受け、実際にソフトウェアを使ってプログラミングを行いました。

その後、受講生を2グループに分けた少数精鋭により、先に組んだプログラムを基に、2時間×2日の実機操作を体験しました。

最後に、民間企業の方々を講師に招き、マシニングセンタで使用する工具(刃物)の使用方法や段取り操作改善の手法などについて、実習を交えて学習しました。

受講者アンケートでは、「三次元CAD/CAMの基礎が理解することができた。」「工具のドリルについての知識を得られて良かった。」などの声も寄せられました。

<p><b>開講式・基調講演</b></p> <p>【講師】 日本大学工学部機械工学科 教授 柿崎 隆夫</p>	<p><b>プログラム(3次元CAD/CAM)の入門編-プログラミング-</b></p> <p>【講師】 福島県立テクノアカデミー郡山 精密機械工学科 副教務主任 小野 裕道 副教務主任 成瀬 哲也</p>	<p><b>プログラム(3次元CAD/CAM)の入門編-マシニング操作-実習①</b></p> <p>【講師】 福島県立テクノアカデミー郡山 精密機械工学科 副教務主任 小野 裕道 副教務主任 成瀬 哲也</p>	<p><b>プログラム(3次元CAD/CAM)の入門編-マシニング操作-実習②</b></p> <p>【講師】 福島県立テクノアカデミー郡山 精密機械工学科 副教務主任 小野 裕道 副教務主任 成瀬 哲也</p>
<p><b>工具(刃物)の知識①(マシニング実習付)</b></p> <p>【講師】 株式会社 不二越</p>	<p><b>工具(刃物)の知識②(マシニング実習付)</b></p> <p>【講師】 株式会社 タンガロイ</p>	<p><b>工具(刃物)の知識③(マシニング実習付)</b></p> <p>【講師】 株式会社 イマオ コーポレーション</p>	<p><b>JUKI会津株式会社(喜多方市塩川町)</b></p> <p>閉講式・交流会 「先端加工技術コース」と 合同で実施</p>



講座による加工品



プログラミング



実機操作



工具刃物の知識の様子

## MOTコース

今回の講義は、今年で3回目となるもので、毎年、秋に行っているマイスターズ・カレッジの一環として行われました。技術経営分野を修得するため、従来は2日間かけて行っていたものを、今回は短期集中講座として、午後、半日間の開催となりました。

今年、日本のMOT(技術経営)を牽引する立命館大学大学院テクノロジーマネジメント研究科 教授 三藤 利雄 氏を講師にお迎えし「技術経営について」のテーマで講義をいただきました。

講義の前半は「技術経営とイノベーション」、後半は「技術経営と戦略」と題し、「短時間ではありますが、決して質を落とすことなく、また、分かり易い事例を数多く引用しながら講義を進めます。」との先生の話があり、21名の受講者のみなさんは、技術経営のエッセンスを吸収しようと、熱心に耳を傾けていました。

受講された参加者の声として「今回が初めての参加でしたが、コンセプトを理解できました。」との感想が寄せられ、今回の講義が、技術経営の理解促進につながるものとなりました。



**講師**  
立命館大学大学院  
テクノロジー  
マネジメント研究科  
教授 三藤 利雄 氏



講義風景

### プロフィール

- ・東京大学大学院工学部情報工学研究科修士課程修了後、(株)東芝(株)富士通システム総研等の企業、財団法人等の社員。職員を経験
- ・1992年 愛知学泉女子短期大学国際教養科助教授
- ・1999年 県立長崎シーボルト大学国際情報学部教授
- ・2006年 摂南大学情報学部経営情報学科教授
- ・南カリフォルニア大学アンネンバーグ・コミュニケーション学部修士課程修了
- ・2010年 立命館大学大学院テクノロジーマネジメント研究科教授に就任

### 講座内容

**MOT(技術経営)の基礎講座**

- ・「真のイノベーション」とは
- ・イノベーションの創出と、イノベーションからの価値創出
- ・イノベーションのライフサイクルと各段階での価値創出
- ・イノベーションのパラドックス
- ・イノベーションの類型

## ちびっ子マイスターズ・カレッジ 「環境にやさしい自然エネルギーにふれよう」

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構では、日本大学工学部と連携し、小学生を対象にものづくりの楽しさと自然環境への理解を深めることを目的とした子ども向け事業「ちびっ子マイスターズ・カレッジ」を開催しました。

今回は、小学生の夏休みを利用した親子参加型の体験教室で、講師に、日本大学工学部電気電子工学科准教授の長澤幸二氏をお迎えし、講習や実験をとおり、電気の正しい知識について学習しました。

また、自然エネルギー(太陽光)で動く模型を親子で工作し、競争しながら完成した模型のでき具合を確かめ、親子で自然エネルギーの興味を深めていました。

昼食後は、同大学工学部に設置された「風力発電施設」を元日本大学工学部准教授渡部弘一氏の案内で見学し、自然環境へ配慮することの大切さを学びました。

当財団では、今後も、小・中学生向けの企画を実施する予定です。

**開催日** 平成24年8月4日(土)  
**場所** 日本大学工学部  
**参加** 親子17組 36名  
**主催** (公財)郡山地域テクノポリス推進機構  
 日本大学工学部



講習会



日大風力発電施設見学



工作模型による競争

# 郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター 卒業企業等成果発表会

**開催日** 平成24年10月17日(水)

**場所** 郡山地域テクノポリス  
ものづくりインキュベーションセンター

**参加** 約60名

**主催** (公財)郡山地域テクノポリス推進機構

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構では、「郡山地域ものづくりインキュベーションセンター」卒業・入居企業の研究成果を広く周知するとともに起業・事業化を支援するため、「卒業企業等成果発表会」を開催しました。

今回の発表会では、入居企業でもあるエコボンド環境工学株式会社 辻田昌彦代表取締役から「確かな技術で福島に貢献」と題し、記念講演をいただきました。

次に、本年度インキュベーションセンターを卒業された企業2社、入居中の企業1社より、それぞれ約10分間のプレゼンテーションをいただき、技術の有用性や特長などを熱心に説明されました。

また、ポスターセッションでは、入居中の企業等が各ブースにおいて、各企業が研究開発した試作品や実用品、パネルなどの展示を行ない、研究成果を披露しました。

当日は、約60名の来場者があり、入居企業等の「ものづくり」に対する熱い情熱を感じていただきました。

当財団では、今後も、入居企業の研究成果の発表の機会を提供して参ります。



辻田氏記念講演



ポスターセッション



卒業企業等プレゼンテーション

## 成果発表企業一覧

支援室No.	名称	本社所在地	業種等	研究開発成果
<b>卒業企業等プレゼンテーション・ポスターセッション</b>				
卒業企業	林精器製造株式会社	須賀川市	精密機械器具製造	表面処理の高度化に関する研究開発 (アルミニウム特殊陽極参加処理)
卒業企業	株式会社向山製作所	大玉村	電子部品組立加工	食品関連の製造販売 (独自レシピによる生キャラメルとプリン等々)
4	神田産業株式会社	須賀川市	段ボール箱の製造販売	段ボール素材による付加価値商品の開発
<b>ポスターセッション</b>				
1	エコボンド環境工学リサーチ株式会社	広島県	除染技術の高度化 研究開発・施工等	「イーコン・ポリイオン工法」による 水処理技術の開発高度化
2	株式会社タウザー研究所	郡山市	医療機器の設計開発	・「カフなし連続血圧計」の開発 ・「パーソナル乳がんモニター」の開発
5	ピー・エス・ピー株式会社	東京都	臨床医療用ソフトウェアの 研究開発・販売	遠隔画像診断支援コンピューターシステムの開発
6	株式会社ニチオン	千葉県	医療機器製造・販売	・身体に優しい手術器具の開発 ・新しい洗浄機の開発
7	オクト産業株式会社	東京都	工業デザイン・製品企画・設計	電磁誘導発電による自立給電システムの開発
8	株式会社テレジャパン	郡山市	放射線量計企画・販売・設置	家庭向け簡易食品放射線測定装置の開発



# 郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議 全体会・交流会

研究会活動報告

開催日 平成25年2月8日(金)  
場所 ビッグパレットふくしま

参加 37名  
主催 郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議

戦略的アライアンス形成会議は、郡山テクノポリス圏域などの中小製造業者が保有する技術力、設備、営業力等の潜在能力を戦略的に活用する組織(アライアンス)を構築することによって、高度な研究開発、新しい受発注及び各種産業振興支援施策の担い手となり、地域産業の活性化を図ることを目的としています。



アライアンス全体会光景

平成25年3月末現在、45社が参画しています。

## 事業方針

- ① 会員企業の技術連携を図り、高度技術や複合技術を必要とする難度の高い特注品・試作品・完成品等を含む受注の確保を目指す。
- ② 会員企業の技術連携を図り、新製品・新商品の開発、ソフトの開発、新事業の創出を図るとともに販売戦略など成果実現を目指す。
- ③ 企業相互の強みを生かしたアライアンス(企業連携)を強化し、新たな付加価値の創出を図るなど、技術力の向上を目指す。
- ④ 本地域・アライアンス形成会議の知名度アップを図る。

当会議では、去る2月8日にビッグパレットふくしまにおいて、会員相互の情報交換の場として「全体会・交流会」を開催しました。

各研究会(「環境保全・共生科学技術研究会」・「医療・福祉機器等関連新事業創出研究会」・「機能性材料・製造プロセス研究会」)の開催状況及び受発注の実績、新規入会企業の紹介、企業訪問の活動状況について事務局から報告した後、福島大学経済経営学類教授の西川和明氏が「地域での人材確保と育成を考える」と題して講演を行いました。また、福島県商工労働部産業創出課主幹の菅原康則氏が「医療機器開発・安全評価センター(仮称)」の整備概要について説明を行いました。終了後、情報交換の場として交流会を開催しました。

### 講演

地域での人材確保と  
育成を考える



### 講師

福島大学  
経済経営学類教授  
西川和明氏

震災復興の事例として、2005年に大型ハリケーン被害に遭遇し、人口が減少しながらも起業を活性化させた米国ニューオリンズ市の例を紹介した。被災地の復興には「人的資本」と「成長基調」の二つの鍵があるとことを指摘し、若者の県内定着などの課題を述べました。

### 施策説明

医療機器開発・安全評価  
センター(仮称)の  
整備概要について



### 講師

福島県商工労働部  
産業創出課 主幹  
菅原康則氏

県が平成27年度供用開始を目指し、郡山市富田町に整備する、医療機器開発・安全評価センター(仮称)の整備概要、施設の機能や果たす役割などについて説明して頂きました。

## 産学官連携企業懇談会

～ふくしま復興元年における中小製造業が取り組むべき役割～

主催 郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議  
会津産業ネットワークフォーラム(ANF)

### 第1回

開催日 平成24年7月19日(木)  
場所 ホテルハマツ  
参加者 70名



### 講師

福島大学  
学長  
入戸野修氏

## 福島大学の復興方針と 地元製造業に期待すること

大学の持つ、ものづくりやシステム造り、調査分析などの知的資源の活用をはじめ、研究人材の登用、大学で新ビジネスを担う人材の育成など有効に利用すべきである。福島大の復興への取り組みや人間の心理などを説明しながら、産学連携の重要性を指摘し、大学への偏見を取り除き地元大学の知財を上手に有効活用してほしいと述べた。



### 第2回

開催日 平成24年9月11日(火)  
場所 ビッグパレットふくしま  
参加者 60名



### 講師

会津大学  
理事長・学長  
角山茂章氏

## 復興元年における会津大学 復興支援センター構想について

県が再生可能エネルギー産業の先駆けの地域となるべく、大学の強みを生かした情報通信技術によるスマートグリッドの研究への取り組みについて紹介した。また、地元企業や国内外の機関と連携し、復興を後押しする情報基盤の整備、復興先端研究、産業振興や人材育成を進める会津大学復興支援センターの構想と役割について述べた。



郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議  
会長 内藤 清吾氏(精工スケー製作所 代表取締役会長)



会津産業ネットワークフォーラム(ANF) 代表 小塚 庄二氏  
(東北日本金型工業 代表取締役社長)

# ものづくりインキュベーションセンターだより

## 新事業創出育成事業



建物外観

当財団では、国、福島県、郡山市、日本大学工学部等の助成を受け、平成18年8月に「郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター」を日本大学工学部キャンパス内に建設し、その管理・運営を行っています。

同センターは、ものづくりによる新たな産業の創出を促進するための支援施設で、企業等の入居スペースのほか、研究開発による試作品を製作するための工作機械を備えた東北初の試作センターや40人収容可能な会議室を併設しています。

また、研究開発・事業化支援のための専門家を配置し、様々なサポートをハード・ソフトの両面から提供するとともに、郡山地域を中心とした大学等の知的財産や産業支援ネットワークを活用し、入居企業等の要望に応じて、技術シーズの事業化を支援しています。

さらに、入居企業の研究成果を広く周知するために、「成果発表会」の開催やセンター内の「展示コーナー」への成果品展示など、PRの機会を提供しています。

新製品の研究開発による新事業創出の成功確率を高めるため、研究開発の指導者がいる大学の敷地内に、試作品を設計・製作する《場》、試作のための基本的な《設備》、経営・技術両面での支援のための《人材》、そして、研究開発成果を広く発表する《機会》を提供します。

### 支援メニュー

**場** 日本大学工学部キャンパス内に新製品の研究開発拠点として、低廉な料金で入居可能な**起業支援室**(11室)を提供。(24時間365日利用可)

**設備** 試作品の製作に必要な各種工作機械を備えた**試作センター**を併設。(高精度立体加工用マシニングセンター等を設置)

**人材** ● **インキュベーションマネージャー**による経営・技術両面でのアドバイスや各分野の専門家・支援機関などの紹介。

● **技術指導員**による試作センターでの試作品製作の際の技術指導。

● **技術コーディネーター**による研究開発・起業化の助成支援、各分野の研究会開催、大学・公設試験研究機関等の研究者との連携。郡山テクノポリス圏域企業によるアライアンス(企業連携)形成への参加等。

**機会** 入居企業の研究開発成果をマスコミや関係者に広く周知し、起業化・事業化を支援するための成果発表会やセンター内の展示コーナーへの成果品展示などの機会を提供。



起業支援室(実験室タイプ)



ロビー



起業支援室(事務室タイプ)



試作センター

### 展示コーナーのご案内

センター内の「展示コーナー」に入居企業の研究成果を展示しておりますので、ぜひご覧下さい。



No.	展示商品名	入居企業名等	支援室№	No.	展示商品名	入居企業名等	支援室№
1	マイクロデバイス	㈱マテリアルエナジ(㈱ピーアンドエム連携)(卒業企業)	—	8	人体模型ガラス管一式	㈱ウィルファイン(卒業企業)	—
2	完全無血培養液	㈱マテリアルエナジ(㈱ピーアンドエム連携)(卒業企業)	—	9	バスケットワイヤーカテーテル	㈱ウィルファイン(卒業企業)	—
3	アクチュエーター(卒業企業)	㈱ピーアンドエム(卒業企業)	—	10	最小侵襲手術用鉗子	㈱フソコ(卒業企業)	—
4	乳がんチェッカー	㈱タウザー研究所	2	11	ハニアル材二段穴付(強化段ボール材)	神田産業株式会社	6
5	尿失禁診断装置	㈱タウザー研究所	2	12	同材料ロックングチェア(強化段ボール材)	㈱フソコ(卒業企業)	—
6	聴覚感度ヘッドホーン	㈱タウザー研究所	2				
7	聴覚感度調整器	㈱タウザー研究所	2				

# NUBIC(日本大学産官学連携知財センター) 郡山サテライトの開設

## 研究開発・事業化コーディネート事業

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構と日本大学の連携により、郡山地域における知的財産・産学連携活動を活性化し、日本大学及び企業間の共同研究、技術移転等を通じて地域産業の発展・推進に寄与するため、「郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター」内にNUBIC郡山サテライトを平成19年7月から開設し、地域企業の皆様の技術開発等に係る相談に応じています。(20年度相談件数:14件、21年度相談件数:23件、22年度相談件数:17件、23年度相談案件:18件、24年度相談件数21件)

また、平成20年度から、当財団とNUBICのコーディネーターが直接企業を訪問しシーズを紹介する「出前セミナー IN 企業」も開催しています。(20年度開催件数:3件、21年度開催件数:4件、22年度開催件数4件、23年度開催件数2件、24年度開催件数3件)



技術相談



出前セミナー

### 主な相談内容

- 日本大学に属する研究者、研究シーズ、知的財産等の紹介、共同研究、技術指導等の斡旋
- 知的財産制度、その運用等に関する情報提供
- 研究開発支援制度、産学連携支援制度等の紹介 など

※開設日時:毎月第4水曜日、午前10時から午後4時まで。事前申し込みが必要です。

※開設場所及び申込先:郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター

※「出前セミナー IN 企業」を希望される企業については、開催日時等について調整が必要となりますので、事前に上記申込先へご相談ください。

☆郡山地域をはじめ県内の中小企業・個人等が対象です。  
☆相談は無料です。



平成24年度の主な動き  
入居者審査委員会の開催状況

①入居者審査

- 第1回…4月26日(木)
  - ・2件の申込みがあり、審査の結果、1企業が新たに入居。  
【支援室No.11】(株)メディファム(5月7日入居)
- 第2回…8月3日(金)
  - ・5件の申込みがあり、審査の結果、5企業が新たに入居。  
【支援室No. 1】エコボンド環境工学リサーチ(株)(9月3日入居)  
【支援室No. 3】(一社)脳と心の健康科学研究(9月15日入居)  
【支援室No. 5】ピー・エス・ピー(株)(9月3日入居)  
【支援室No. 8】(株)テレジャパン(9月10日入居)  
【支援室No.10】EDR-K(平成25年1月10日入居)
- 第3回…平成25年1月23日(水)
  - 【支援室No. 9】オバナヤ・セメンテックス(株)(平成25年3月18日入居)

②入居者延長審査

- 平成25年1月23日(水)…4企業の延長決定
  - ・(株)タウザー研究所
  - ・神田産業(株)
  - ・(株)ニチオン
  - ・オクト産業(株)

入居企業一覧

入居企業名	業種等	本社	入居日	主な研究開発用件	会社PR
エコボンド環境工学リサーチ株式会社	除染技術の高度化	広島県庄原市	平成24年9月3日	「イーコン・ポリイオン工法」による水処理技術の開発高度化	除染技術の高度化に取り組み、新しい開発技術を持って更に貢献したい
株式会社タウザー研究所	医療機器の設計開発	郡山市	平成20年2月1日	①「カフなし連続血圧計」の開発 ②「パーソナル乳ガンモニター」の開発	大学及び研究所で使用する実験装置の開発設計、及び新規デバイスの啓発研究
一般社団法人 脳と心の健康科学研究所	脳と心の健康に関する委託研究・開発	郡山市	平成24年9月15日	脳と心の健康保持増進のための測定機器の開発	脳と心の健康に関する事業を通じて、保健、医療及び福祉の向上に寄与することを目標
神田産業株式会社	段ボール箱の製造販売	須賀川市	平成20年2月1日	段ボール素材による付加価値商品の開発	産学官連携による各種産業用機械の商品開発、営業企画、量産設計
ピー・エス・ピー株式会社	臨床医療用ソフトウェアの研究開発・販売	東京都港区	平成24年9月3日	「遠隔画像診断支援コンピューターシステム」の開発	臨床医療用ソフトウェアの研究開発・販売
株式会社ニチオン	医療機器 製造・販売	千葉県船橋市	平成23年8月22日	①身体に優しい手術器具の開発 ②新しい洗浄機の開発	社会的効用をもたらす最先端医療機器・革新的設備機器等の研究開発
オクト産業株式会社	工業デザイン 製品企画・設計	東京都板橋区	平成24年3月1日	電磁誘導発電による自立給電システムの開発	産学官連携による電磁誘導および自然エネルギーを利用した発電と、高効率充電方法の開発
株式会社テレジャパン	放射線量計 企画・販売・設置	郡山市	平成24年9月10日	家庭向け簡易食品放射線測定装置の開発	家庭でも測定できる簡易食品放射能測定器を開発
オバナヤ・セメンテックス株式会社	石粉、砕石の製造・販売	愛知県名古屋	平成25年3月18日	鉄筋コンクリート構造物用補修材料・工法の企画・開発・販売準備	塩素固定化材を配合したポリマーセメント系鉄筋防錆材の開発実用化
EDR-K	高周波及びセンサー関連他 開発委託	郡山市	平成25年1月10日	モバイル端末用途の球状ANT開発	独創的なアイディア製品を主製品として、契約会社との開発委託事業を展開
株式会社メディファム	動物用医薬品の製造販売	郡山市	平成24年5月7日	動物用医薬品および動物用サプリメントの開発・製造	畜産現場において生産性の向上または、差別化により輸入製品に対抗し売るための製品開発

コラム  
COLUMN  
IMから

向山製作所 東京丸の内に専門店オープン

卒業企業の向山製作所がJR東京駅丸の内南口より徒歩1分の商業施設に生キャラメルソースプリンの専門店を出店しました。ご存知、電子部品会社が手掛けた生キャラメルで知られる向山製作所。契約農家から届く新鮮な卵と良質な牛乳で丁寧に作られた優しい味わいが特徴のプリンに、抹茶、紅茶、黒ゴマ、黒糖、マンゴーなど多彩な味の別立生キャラメルソースをかけてお召し上がり下さい。



「東京丸の内専門店」にて

東京丸の内の商業施設は、JR東日本が運営する施設で、地下1階から地上6階までのフロアーに98のショップとレストランがある大型商業施設であり、地下1階に向山製作所の専門店があります。皆様、是非お立ち寄りください。

詳しくは向山製作所ホームページをご覧ください。(http://www.mukaiyama-ss.co.jp/caramel/index.html)



向山製作所  
ホームページ

## IT交流プラザ活動報告

## 人材育成事業

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会は、(公財)郡山地域テクノポリス推進機構と連携し、「ICT」をキーワードに圏域企業やSOHO・個人等を対象に会員を募り、情報交換や情報収集、交流の場を設けています。

また圏域内ICT化支援のため、ITやホームページの利活用、最新のWeb技術動向などについて「IT交流プラザ事業」を実施し、IT交流プラザ会員だけでなく圏域企業等にも役立つセミナーなどを開催しています。

平成24年度は以下の事業を実施しました。

## 第1回:IT交流プラザ 「ビジネスで成功するFacebook・Twitter活用法」(IT高度利用推進事業と連携)

Facebook・Twitterなどソーシャルメディア(SNS)活用に取り組む企業、クライアントにSNS導入・活用を提案するIT関連企業やWebクリエイター、SNSで販促の効果を上げたいECサイト・店舗運営者に向けて、ソーシャルメディアの特性に応じた使い分け方や、活用事例(東急ハンズ、無印良品、ルミネの例)について学ぶセミナーを開催しました。



開催日	平成24年6月8日(金)	参加者	32名
会場	郡山地域テクノポリス ものづくりインキュベーションセンター		
講師	ITジャーナリスト・情報リテラシーアドバイザー 高橋 暁子 氏		

## 第2回:IT交流プラザ 「Webマーケティング思考トレーニング+ワークショップ」(IT高度利用推進事業と連携)

Web制作においてマーケティングの重要性がさらに高まってきた昨今、結果を出すために必要なWebマーケティングの本質はなにか。俯瞰した視点から問題の本質を掴み、Webマーケティングについて考えるセミナーを開催しました。



開催日	平成24年7月7日(土)	参加者	26名
会場	郡山地域テクノポリス ものづくりインキュベーションセンター		
講師	(株)KDDIウェブコミュニケーションズ SMB事業本部長 高畑 哲平 氏		

## 第3回:IT交流プラザ 「文章表現力ワークショップ」(情報化人材育成・研修事業と連携)

仕事上でもメールのやりとり、企画書、報告書、またSNSやブログの運営など、文章でコミュニケーションする機会は格段に増えました。

そこで「伝わる、揺さぶる」文章を書くためのライティング・ワークショップを開催しました。



開催日	平成24年9月8日(土)	参加者	48名
会場	郡山市民交流プラザ 大会議室		
講師	山田 スーニー 氏		

## 第4回:IT交流プラザ UXデザインのための「ユーザー体験コンセプトの作り方」(IT高度利用推進事業と連携)

製品やサービスを使ったときにユーザーが得られる体験(ユーザーエクスペリエンス=UX)をデザインするにはどうすればよいのか。UXをデザインするために最も重要で、基本となる「ユーザー体験コンセプト」をいかに引き出すか、その中心技術として、フォトエッセイを用いた「ユーザー体験価値分析法」(KA法)を学ぶワークショップを開催しました。

UXを学ぶワークショップの3回シリーズの1回目。



開催日	平成24年9月28日(金)	参加者	12名
会場	郡山地域テクノポリス ものづくりインキュベーションセンター		
講師	千葉工業大学 工学部デザイン科学科 准教授 安藤 昌也 氏		

## 第5回:IT交流プラザ 「今だから知っておきたい、サーバーのこと、ファイル管理のこと」(IT高度利用推進事業と連携)

Web制作においてサーバーの知識が必要とされる状況が増えてきました。そこで、安全なファイルのバージョン管理や、バックアップを含めた管理方法の見直し、次世代サーバーツールを使った作業の効率化などについてのセミナーを開催しました。



開催日	平成24年10月20日(土)	参加者	12名
会場	郡山地域テクノポリス ものづくりインキュベーションセンター		
講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)KDDIウェブコミュニケーションズ デザイン部 GM 神森 勉 氏</li> <li>●プロダクトマネージャー 阿部 正幸 氏</li> <li>●カムテック 代表 古川 勝也 氏</li> </ul>		



**第6回:IT交流プラザ UXデザインのための「ユーザー体験コンセプトの作り方」**(IT高度利用推進事業と連携)

前回(第4回IT交流プラザ)のワークショップで見つけ出した「ユーザー体験コンセプト」を、サービスのコンセプトアイデアとして形にしていく過程を学ぶワークショップを開催しました。(午前中は前回欠席者のための復習)。UXを学ぶワークショップの3回シリーズの2回目



開催日	平成24年10月27日(土)	参加者	22名
会場	郡山地域テクノポリス ものづくりインキュベーションセンター		
講師	千葉工業大学 工学部デザイン科学科 准教授 安藤 昌也 氏		

**第7回:IT交流プラザ UXデザイン「サービスアイデアの可視化とインタラクションの設計」**(IT高度利用推進事業と連携)

3回シリーズのワークショップの集大成として、第4回・6回で導かれた「UXの体験コンセプトツリー」に基づき、サービスを形にするためのアイデアをかたちにし、エピソードに落とし込んで、実現に必要なインタラクション、UI(ユーザーインターフェース)を設計するワークショップを開催しました。



開催日	平成24年11月10日(土)	参加者	15名
会場	郡山地域テクノポリス ものづくりインキュベーションセンター		
講師	千葉工業大学 工学部デザイン科学科 准教授 安藤 昌也 氏		

**第8回:IT交流プラザ CSS Nite in FUKUSHIMA, Vol.6 「マルチデバイス化を見据えたコンテンツ設計」基礎講座**

岡山をスタートに東京・大阪でも再演されている人気のワークショップを、CSS Nite in FUKUSHIMAとして郡山で開催。多デバイス化し、さらに情報発信が複雑化するこれからは、Webに適したコンテンツ設計の重要性がいっそう高まります。デザイン時から考慮すべきコンテンツの設計について、具体的な手法だけでなく、当日は実際手を動かして、どのように設計していけばよいのかを体感・紹介する3時間のワークショップを開催しました。



開催日	平成25年2月23日(土)	参加者	25名
会場	郡山地域テクノポリス ものづくりインキュベーションセンター		
講師	長谷川 恭久 氏		

**高度IT人材育成事業 「ICTリーダー研修講座」** 人材育成事業

**開催日** 平成25年3月9日(土)、10日(日)9:00~17:00  
**場所** 日本大学工学部 情報研究棟 第一研究室  
**参加** 13名  
**主催** 郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会 (公財)郡山地域テクノポリス推進機構  
**共催** 日本大学工学部



**講師**  
 (株)エフコム  
 佐藤 恵一 氏  
 紺瀬 祐子 氏

日本大学工学部と連携し、地域や企業等におけるICT化推進のリーダーとなる方を対象に、より高度で実践的な知識を習得できるような人材を養成するため、「ICTリーダー研修講座」を実施しました。本年度は、業務で活かせるエクセル(表計算)の関数、ネットワークやセキュリティに関するトラブルを回避するための知識など、より実践的なカリキュラムに絞り込み、2日間で集中的に行いました。

**概要**

- 3月9日(土) 座学**
  - システム戦略(情報システム戦略の考え方等)
  - ネットワーク(各種プロトコルについて等)
  - 情報セキュリティ(情報資産と情報セキュリティ等)
- 3月10日(日) 実習**
  - アプリケーションの活用(EXCEL)
  - さまざまな関数の応用等

**テクノ・ニューコメ ホームページリニューアル**



新たにソーシャルメディアに対応し、よりわかりやすく効果的な情報発信を目指して、ホームページをリニューアルしました。



ものづくり  
インキュベーションセンター

トップページ

## アドホック研究会

## 研究会活動報告

会員相互の技術、情報などの交流と幅広い研究を通して、新技術、新商品、新事業の開発と新市場の開拓を促進するとともに、生産・販売面での相互協力を促進し、会員企業の成長発展と地域産業の振興に貢献することを目的に活動しています。会員は郡山地域テクノポリス圏域内(郡山市、須賀川市、三春町、鏡石町、玉川村、石川町)などの企業経営者・役員です。

### アドホック研究会(郡山)

会員数	13名
会長	坂口 進(㈱坂口伝導工機代表取締役社長)

#### 平成24年度 事業内容

##### 4月定期総会

**5月例会** 平成24年度事業計画(月別テーマ)の検討

**6月例会** 7月以降の例会テーマの検討、情報交換会

**7月例会** 研修会

演題「被ばく環境下での心と身体の健康」  
公立岩瀬病院 院長 三浦純一氏  
※須賀川方部アドホック研究会と合同実施

**8月例会** 企業視察研修会(宮城県仙台市)

「㈱新興(バイオマス発電他)」  
「宮城県産業技術総合研究所」

**9月例会** 10月例会テーマの検討及び海外視察について

**10月例会** 「環境保全・共生科学技術研究会」視察研修への参加、情報交換会

**11月例会** ●「第13回産学官連携フォーラム」への参加、情報交換会  
●海外視察研修(インドネシア)11月22日～26日  
「旭紙業(㈱)ジャカルタ工場」「PT.OHTOMI」  
※須賀川方部アドホック研究会と合同実施

**12月例会** 海外視察研修報告及び情報交換会

**1月例会** 「テクノポリス新春講演会」への参加、情報交換会

**2月例会** 須賀川方部アドホック研究会  
設立20周年 記念式典 参加

**3月例会** 次年度事業計画等の検討、情報交換会



7月例会  
研修会(須賀川方部合同)



8月例会  
企業視察研修

### 須賀川方部アドホック研究会

会員数	17名
会長	水上 哲夫(有ぱすわーど 代表取締役)

#### 平成24年度 事業内容

##### 4月定期総会

**5月例会** 平成24年度事業計画(月別テーマ)の検討

**6月例会** 講演

演題「再生可能エネルギーの  
電力固定価格買取制度について」  
講師 東北電力(株) 須賀川営業所 所長 鯨岡晴枝 氏  
同 お客様センター 副長 江花秀一 氏

**7月例会** 講演

演題「被ばく環境下での心と身体の健康」  
講師 公立岩瀬病院 院長 三浦純一 氏  
※アドホック研究会(郡山)と合同実施

**8月例会** 電気自動車試乗会 ●プリウスPHV(トヨタ)  
●リーフ(日産)  
●ミニキャブ(三菱)

**9月例会** 企業視察「㈱ジェイラップ」(須賀川市泉田)

**10月例会** 企業視察「小型移動式バイオマスガス  
発電ステーション実証プラント」  
クリーン・エネルギー・ネットワーク有限責任事業組合  
(郡山市田村町)

**11月例会** 海外視察研修(インドネシア)11月22日～26日  
「旭紙業(㈱)ジャカルタ工場」「PT.OHTOMI」  
※アドホック研究会(郡山)と合同実施

**12月例会** 海外視察研修報告会

**2月例会** 設立20周年記念事業  
記念式典  
記念事業「福島県立清陵情報高等学校研究成果発表会」  
記念祝賀会

**3月例会** 国内視察研修  
第3回 国際スマートグリッドEXPO(東京ビックサイト)



6月例会 講演



8月例会 電気自動車試乗会



2月例会 設立20周年記念事業



# 平成24年度 各研究会活動状況報告

## 研究会活動報告

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構では、産学官連携による研究開発体制の構築を目的に各種研究会活動を支援するとともに、大学等との連携により、技術シーズの紹介・提案、企業ニーズの大学等での検証、シーズとニーズのマッチングによる具体的な産学共同研究開発案件の掘り起こしなどを行っています。現在、分野別に「環境保全・共生科学技術研究会」・「医療・福祉機器等関連新事業創出研究会」・「機能性材料・製造プロセス研究会」の3つの研究会が活動しています。

また、異業種交流グループ「アドホック研究会」が郡山と須賀川地域で組織され活動を行っています。

以下、これら研究会の活動状況を紹介します。

### 環境保全・共生科学技術研究会

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構と日本大学工学部との共同主催で、同大学の環境保全・共生共同研究センターと連携した研究会です。環境をテーマとした研究シーズを地域の産業界と融合させ新事業創出を図ることが目的です。主な研究テーマは「大気、水質、土壌などの自然環境の保全・修復」、「省エネルギーやグリーンエネルギー」、「廃棄物の処理・リサイクルや未利用資源の活用」、「環境に関する影響評価・分析」、「環境関連装置・環境に調和した製品の開発」などです。

<b>第1回</b> 開催日 平成24年7月12日(木) 参加 70名	場所 日本大学工学部50周年記念館
--	-------------------

『福島県の復興を支えるロハス工学の取り組みについて～福島県発の災害に強く自立共生が可能な住環境を目指して～』をメインテーマに、福島県復興計画の重点プロジェクトの一つである再生可能エネルギーの利用、水循環システムの展開、さらには自然環境と共生した住環境の整備に係る取り組みを紹介し、震災からの復旧・復興と今後の地域づくりに向けた方向性を探りました。



- コーディネーター**  
日本大学工学部土木工学科 教授 長林 久夫 氏
- テーマ1**「福島県の復興を支えるロハスの工学のプロジェクト概要」  
日本大学工学部機械工学科 教授 柿崎 隆夫 氏
- テーマ2**「浅部地中熱による再生可能熱エネルギー利用の可能性」  
日本大学工学部機械工学科 准教授 伊藤 耕祐 氏
- テーマ3**「自立共生の住環境を支える水循環の展開」  
日本大学工学部土木工学科 准教授 中野 和典 氏
- テーマ4**「復興を支える環境共生の住環境」  
日本大学工学部建築学科 准教授 浦部 智義 氏

<b>第2回</b> 開催日 平成24年10月12日(金) 参加 16名	場所 相馬港湾建設事務所所管の漁港等(相馬市、新地町) (相馬双葉漁協新地支所、相馬港、松川浦漁港及び大洲海岸) 南相馬市小高区及び沿岸部、メガソーラー設置予定地等【南相馬市】
---	--

**視察研修会** 東日本大震災からの復興として「津波による被災地区の現状と復興へ向けたまちづくりへの取り組み」と「再生可能エネルギーの導入に向けた取り組み」などについて、浜通り地方の公共施設や関係自治体等を訪問し、視察研修を行いました。

**相馬港湾建設事務所所管の漁港等(相馬市、新地町)**  
相馬港湾建設事務所は、重要港湾相馬港をはじめ、松川浦、釣師浜、真野川、請戸及び富岡の5つの漁港を所管している。震災時は9m以上の津波が押し寄せ、所管する施設が被害を受けるとともに事務所も流され、被害の爪痕が未だに残っている状況でした。しかし、復興予算の重点配分と国直轄の復旧事業などにより、工事着手率もようやく半分の50%まで達した状況でした。

**メガソーラー設置予定地等(南相馬市)**  
南相馬市は、(株)東芝と大規模太陽光発電とスマートコミュニティー導入に関する協定書の締結を交わしました。原子力に依存しないまちの基本方針のもと、2020年度までに市全体の電力使用量の65%を再生可能エネルギーで供給できる体制を目指している。また、津波による被害を受けた沿岸部の復興状況やメガソーラー設置予定地を視察してきました。



相馬港にて



松川浦漁港にて



南相馬市役所新エネルギー推進課にて

## 医療・福祉機器等関連新事業創出研究会

### 平成24年度 医療・福祉機器等関連新事業創出研究会

#### 第1回

開催日 平成24年7月25日(水)  
参加 80名

場所 ホテル ハマツ 2階「チェルシー」  
主催 当財団と日本大学工学部とジェトロ福島

郡山地域テクノポリス推進機構と日本大学工学部 工学研究所及び日本貿易振興機構 福島貿易情報センターが主催・連携した研究会です。

今回の研究会は、韓国の医療機器産業について、韓国 江原道 原州より医療機器産業関係者をお迎えして開催されました。セミナーのテーマは「韓国の医療システム構築と医療機器開発」、「韓国 江原道の開発計画と誘致事業の紹介」、「原州医療機器産業クラスターの医療機器開発について」等の他、「ビジネスマッチング/技術・起業等相談会」「日韓両機器産業交流会」が開催されました。



朴 聖淋先生の講演



講演風景



ビジネスマッチング



産業交流会

#### 第一部 隣国 韓国の医療機器産業の動向と今後の取り組み

##### セミナー1「韓国の医療システム構築と医療機器開発」

韓国 延世大学 医工学部 助教授/産学協力重点教授 朴 聖淋 氏

##### セミナー2「韓国 江原道の開発計画と誘致事業の紹介」

韓国 江原道庁 投資誘致事業本部 専門委員 柳 德基 氏

##### セミナー3「原州医療機器産業クラスターの医療機器開発と展望」

- ① Daeyang Medical 株式会社  
..... 代表理事/会長 尹 一龍 氏
- ② Korea Dolki 株式会社  
..... 品質管理部長 金 石柱 氏
- ③ Taeyeon Medical 株式会社  
..... 代表取締役 崔 吉運 氏
- ④ 株式会社 CARETek  
..... 研究所長 李 柱韓 氏
- ⑤ 株式会社 Medical Supply  
..... 理事 金 太君 氏

#### 第二部 「ビジネスマッチング/技術・起業等相談会と

#### 日韓医療機器産業交流会」

- ① ビジネスマッチング/技術・起業等相談会
- ② 日韓医療機器産業交流会

#### 第2回

開催日 平成24年12月20日(木)  
参加 60名

場所 日本大学工学部「次世代工学研究技術センター」  
主催 当財団と日本大学工学部

(公財) 郡山地域テクノポリス推進機構と日本大学工学部 工学研究所が主催・連携した研究会です。

今回の研究会は、日本大学工学部 電気電子工学科 教授 工学博士 尾股定夫氏のコーディネートにより3つのテーマにより行われました。

第1部は、日本大学工学部 次世代工学研究センター 教授 酒谷 薫 氏をお迎えし「福島県の医療・福祉機器産業は 今何をやるべきか」のテーマで、震災による避難者のストレス度測定器の開発において、地元ものづくり中小企業に求めるもの、についての講演が行われました。

第2部は、元 メティアスホールディングス株式会社の取締役 富岡一幸氏をお迎えし「地元企業が参画できる医療福祉機器製造技術に関する提案」と題し、震災復興で 今何が求められているか、様々な医療福祉機器の製造技術分野における提案が、同氏の豊富な知識・経験から語られました。

第3部では、日本大学産官学連携知財センター コーディネーター 松岡義人氏を講師にお迎えし、NUBICの活動内容、活動実績及び技術移転の事例と研究シーズの紹介が行われ、具体的に「足の握力測定器」と「座クササイズ」の2つが紹介されました。

60名を超える多数の聴講者からは、「中小企業の視点による医療福祉機器製造現場や流通事情等、具体的な話が聞くことができた。」と好評でした。産学連携の重要性を強く印象づける研究会となりました。

##### セミナー1「福島県の医療福祉産業は 今何をやるべきか」

日本大学工学部 次世代工学研究センター 教授 酒谷 薫 氏

##### セミナー2「地元企業が参画できる医療福祉機器製造技術に関する提案」

元 メティアスホールディングス株式会社 取締役 富岡 一幸 氏

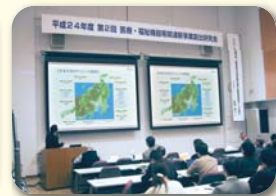
##### セミナー3「NUBIC活動内容と、活動実績及び

##### 技術移転の事例と研究シーズの紹介」

日本大学産官学連携知財センター コーディネーター 松岡 義人 氏



第2回 講演風景



第2回 講演風景



第2回 講師先生



## 機能性材料・製造プロセス研究会

当機構主催、日本大学工学部が共催で「新しい材料や製造技術」、「現行の材料や製造技術の改善」などをテーマとし、地域の材料系企業への技術情報の発信や各種技術交流会等を開催しており、本年度は再生可能エネルギー（地中熱等）に関する講演会等を実施しました。

### 平成24年度 機能性材料・製造プロセス研究会

開催日 平成24年8月28日(火) 参加 60名	場所 ビューホテルアネックス 3階「雲水峰」
-----------------------------	------------------------

#### コーディネーター

日本大学工学部生命応用化学科 教授 西出 利一 氏

**テーマ1 「使おう地熱エネルギー」**… (独)産業技術総合研究所 地熱資源研究グループ 主任研究員 安川 香澄 氏

地熱発電の特徴やしきみ、技術的課題について、さらに、将来の地熱エネルギーとして期待されているEGS(地熱増産システム)や、熱エネルギーを直接温熱として使う地熱直接利用、地熱資源を観光資源として用いるエコツアー等が紹介されました。



**テーマ2 「省エネルギーの切り札 地中熱利用システム」**

……(独)産業技術総合研究所 地下水研究グループ 主任研究員 内田 洋平 氏  
地中熱システムの原理、エネルギー対策としての意義、福島県における地域振興策としての可能性等について紹介されました。



**テーマ3 「浅部地中熱利用とその展望 安全で快適なコミュニティ形成を目指して」**

……………日本大学工学部 機械工学科 准教授 伊藤 耕祐 氏  
浅部地中熱を利用した快適な温熱環境の研究や、災害に強いコミュニティ形成を視野に入れた研究内容と今後の展望等について紹介されました。

## 戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン事業)の継続実施

### 新事業創出育成事業

経済産業省が所管する中小企業の基盤技術高度化事業で、戦略的基盤技術高度化指針に記載された鍛造、金型、真空など20の分野を活用して川下企業(大手企業等)の技術課題を解決するもの。事業管理機関によるコンソーシアム方式で中小企業の参加が必須となる。

- 3カ年継続事業の2年目、1件当たり総額1億円程度の委託事業。
- 平成24年度当該事業が継続事業として承認され、以下の2事業を当財団が事業管理機関として事業展開。

#### 材料科学的アプローチによる

#### 厚板鍛造の高度シミュレーション技術の確立

高級腕時計・携帯電話筐体の3次元形状の難加工部品についてはこれまで熟練工の暗黙知に依存してきたが、本開発では、結晶構造解析など内部組織情報とサーボプレスを融合することで課題を解決し生産性を向上させる。



研究推進会議

共同研究体制

- 林精器製造(株)(総括プロジェクトリーダー)
- 国立大学法人茨城大学(副総括プロジェクトリーダー)
- 福島県ハイテックプラザ(公設試験研究機関)
- 郡山地域テクノポリス推進機構(事業管理者)

#### 標準コンダクタンスエレメントを用いた 基準微小ガス流量導入装置の開発

高真空・超高真空を測定するこれまでの真空計は適切な校正方法が無かったため、ステンレス製多孔質焼結体(標準コンダクタンスエレメント)の改良開発によるガスフィルター製造技術と微小ガス流量発生・測定技術を組み合わせ、専門的知識と習熟を必要としない新たな真空計測器の中核部分を担う装置を開発する。

共同研究体制

- 独立行政法人産業技術総合研究所 (総括プロジェクトリーダー)
- (株)ピュアロンジャパン(副総括プロジェクトリーダー)
- (株)アルパック(川下企業)
- 郡山地域テクノポリス推進機構(事業管理者)

2つの研究開発事業は、順調に進んでおり、平成25年度についても事業継続として承認されており、本年度が最終年度となる。

## 平成25年度 各種助成事業募集のお知らせ

### 研究開発・事業化コーディネート事業

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構では、テクノポリス圏域内企業や企業グループ(産学連携を含む)等の研究開発や起業化の取組みを支援するため、各種助成事業を設けています。

#### ① F/S支援事業

研究開発や新事業創出等の成功率を上げるために、開発に着手する前段のフィージビリティスタディ(実現可能性・起業化可能性の調査検討=F/S)を行う場合に経費の一部(助成対象経費の2/3以内で100万円を限度)を助成します。

#### ② 研究開発助成事業

新技術または新製品の開発、生産工程の合理化または製品の高付加価値化、これらに類する技術の高度化に関する研究開発を行う企業、共同研究グループに対して、研究開発に要する経費の一部(助成対象経費の2/3以内で300万円を限度)を助成します。

#### ③ 地域技術起業化助成事業

技術革新の進展に即応した技術を製品化・商品化するため、その事業に向けて必要な商品開発、情報収集、市場開拓等の事業を行う企業や共同研究グループに対して起業化に要する経費の一部(助成対象経費の2/3以内で500万円を限度)を助成します。

#### ④ 債務保証事業

新技術、新製品などの研究開発を行うため、優秀な技術力、製品開発力がありながら資金調達力不足などの理由で、研究開発が促進できない企業のために、研究開発に要する資金の金融機関からの借入に際し、無担保で2,000万円まで債務を保証します。

#### ⑤ 新技術・新製品市場開拓支援事業

新技術、新製品の新規市場開拓や販路拡大につなげることを目的に行う、海外の産業見本市等への出展に要する経費の一部(助成対象経費の2/3以内で50万円を限度)を助成します。

## 平成24年度 助成対象企業(平成24年度の助成事業対象企業は以下のとおりです)

#### ① F / S支援事業

**企業名** 株式会社フクヤマ(郡山市)

**F/Sテーマ:**『**粉碎瓦を田んぼに散布し、稲作への生長効果や土壌の放射性セシウム吸着効果を検証する**』

陶器瓦の廃材は産業廃棄物として処理されている。この廃材瓦(愛知県三州瓦)を有効に再利用するため、廃瓦を粉碎して田圃に散布し、稲作への生長効果の検証と、現在問題になっている土壌の放射性セシウムの吸着効果について、日本大学工学部と連携しながら調査、検討を行いました。

■**事業実施期間:**平成24年8月21日~24年11月30日

■**助成交付額:**960,200円

#### ③ 地域技術起業化助成事業

**企業名** 林精器製造株式会社(須賀川市)

**起業化テーマ:**『**アルミニウム特殊陽極酸化処理「ALアドバンス処理」の市場開拓による事業化と皮膜特性の更なる高度化**』

当社の「ALアドバンス処理技術」の優れた性能は、利活用できる分野が民生・日用品、医療及び自動車産業などと幅広いため、評価生産ラインの導入と品質保証体系を構築して、多種多様な商品サンプルを製作して製品化を行っていきます。

■**事業実施期間:**平成25年3月1日~26年2月28日

■**助成交付額:**4,870,000円(予定)

#### ⑤ 新技術・新製品市場開拓支援事業

**企業名** 有限会社マサル精器(田村郡三春町)

**見本市の名称:**『**江原医療機器展示会GMES2012**』

■**開催場所:**原州国民体育センター(韓国江原道原州市)

■**研究開発テーマ:**背骨測定器「Sシミュレーションシステム」

■**助成交付額:**99,766円

**企業名** ひさき設計株式会社(郡山市桑野)

**見本市の名称:**『**江原医療機器展示会GMES2012**』

■**開催場所:**原州国民体育センター(韓国江原道原州市)

■**研究開発テーマ:**手動演奏オルゴール

■**助成交付額:**410,826円



技術コーディネーター活動報告

「サロン・デュ・ショコラ」に出展

（株）向山製作所

生キャラメルを製造販売する電子部品会社として知られる向山製作所は昨秋、スイーツの本場フランス・パリで開催された菓子の祭典「サロン・デュ・ショコラ 2012」に生キャラメルを初出展した。ふくしまの食品業界が苦心を強いられている中、同社は世界市場へ向けて果敢にチャレンジ。「向山製作所の生キャラメル」が海を渡り、世界への扉を開こうとしている。



フランス・パリ開催会場

ハニカム構造で優れた製品を開発

神田産業(株)

神田産業(株)は特殊段ボール素材を使用した付加価値の高いハニカム製品の研究開発に取り組んでいる。ハニカム構造をコア技術として自動車や航空機の部材にも使われている。特に段ボールは耐火性、耐水性、耐過重性に致命的な欠陥を有しますが、同社はそのことにチャレンジして付加価値のある製品の開発を目指しています。



ハニカム製品「子供用二段ベッド」

シャモット(粉碎瓦)を利用した稲作栽培に一定の評価

（株）フクヤマ

廃瓦を粉碎した「シャモット(商品名)」を田んぼに散布し、稲作への成長効果や土壌の放射性セシウム吸着効果について、一定の検証結果を得ることができた。今後は、粉碎瓦の粒度を数種類に分けて散布して比較検証を行い、粉碎瓦の製品化に向けて研究開発を進めている。また併せて特許取得も進めている。



たわわに実った稲穂

## ふくしま復興 再生可能エネルギー産業フェア2012

開催日 平成24年11月7日(水)～23日(木)  
場 所 ビッグパレットふくしま

来 場 約4,200名  
主 催 福島県 公益財団法人福島県産業振興センター

このフェアは、原子力に依存しない安全・安心な社会を創るため本県を再生可能エネルギーの先進地とすることを目的に、新たな産業の創出、関連産業の集積・育成や、関連産業でビジネスに取り込まれる企業・団体の皆様に技術・情報の収集、商談・交流の場を提供しました。当(公財)郡山地域テクノポリス推進機構も展示ブースを設け、産学により開発した「生ゴミからメタンガスを高効率で回収する燃料電池発生装置」のパネルと環境にやさしい自然エネルギーの教育題材に「こどもでも作れるソーラー・カーの模型など」を出展しました。



開会式テークバック



テクノポリスブース

### イベント内容

#### セミナーの開催

##### 企業経営者・技術者向け講演会

- ①「再生可能エネルギーと電気自動車で創る明るい未来」  
慶応義塾大学 環境情報学部教授 清水 浩 氏

##### トップセミナー・中央省庁セミナー

- ②「21世紀世界の再生可能エネルギー-真の価値」  
再生可能エネルギー協会 代表 黒川 浩助 氏
- ③「文部科学省における再生可能エネルギー-関連施策について」  
文部科学省研究開発局環境エネルギー課 環境科学技術推進官 清浦 隆 氏
- ④「農山漁村における再生可能エネルギー-導入促進について」  
農林水産省 食料産業局 再生可能エネルギーグループ長 信大 隆生 氏
- ⑤「再生可能エネルギーを巡る現状と課題」  
経済産業省 資源エネルギー庁 倉エネルギー-新エネルギー-部 新エネルギー-課 課長 村上 敬 氏
- ⑥「再生可能エネルギーを活用した地域づくり」  
環境省 総合環境政策局 環境設計課 課長 岡谷 重雄 氏

#### 再生可能エネルギー技術セミナー

- ⑦「地域イノベーション戦略支援プログラムの概要」  
福島県産業振興センター プロジェクトディレクター 服部 靖弘 氏
- ⑧「次世代太陽電池の研究開発計画」  
福島大学 教員技術産業技術研究所 太陽光発電工学研究センター長 近藤 道雄 氏
- ⑨「災害に強いエネルギー自立-自然共生システム基盤技術の研究計画」  
日本大学 工学部教授 柿崎 隆夫 氏
- 福島大学 共生システム理工学類教授 島田 邦雄 氏
- いわき明星大学 産学連携研究センター長 安野 拓也 氏
- ⑩「持続循環社会を実現するスマートグリッド情報基盤の研究計画」  
会津大学 コンピュータ理工学部教授 林 隆史 氏
- ⑪「再生可能エネルギー産業のための人材育成プログラム計画」  
福島大学 共生システム理工学類教授 渡邊 明 氏

#### 分野別専門セミナー

- ⑫「風力発電事業による産業振興及び雇用創出の可能性」

新国立研究所電気分システム事業部 発電システム部 チーフプロジェクトマネージャー 松尾 隆 氏

- ⑬「太陽電池が切り拓くスマートな暮らし」  
シャープ(株)ソーラーシステム事業本部 技術開発センター所長 中川 泰仁 氏
- ⑭「バイオマスと再生可能エネルギーの利用による地域活力創造」  
農林 食品産業技術総合研機構農村工学 研究所資源循環工学研究領域 上席研究員 袖山 義人 氏
- ⑮「再生可能エネルギーと国内クレジット制度及びカーボンオフセットについて」  
東北緑化環境保全(株) 技術部技術企画グループ 橋本 徹 氏
- ⑯「電気自動車が切り拓くスマートシティの未来」  
日産自動車(株)マーケティングマネージャー 長谷川 浩嗣 氏
- ⑰「産総研福島拠点における再生可能エネルギー-研究開発」  
産業技術総合研究所企画本部企画副部長 大和田野 芳郎 氏

#### 同時開催セミナー

- ⑱「再生可能エネルギーは中小企業にとってビジネスチャンスの宝庫だ」  
経営支援NPOクラブ理事 森本 五百樹 氏

#### 出展者交流会 / 取引商談会

## メディカルクリエーションふくしま2012

開催日 平成24年11月28日(水)～29日(木)  
場 所 ビッグパレットふくしま  
来 場 約3,800名

主 催 メディカルクリエーションふくしま2012実行委員会  
共 催 (一社)日本医療機器学会  
(財)医療機器センター

この展示会は、ものづくり企業、大学等研究機関、医療機器関連メーカーの商談・技術交流の場として平成17年より8年連続して開催しており、今年度は、209の企業・団体の出展で過去最大規模の展示会となりました。

今回は、21世紀のリーディング産業として期待されている医療機器関連産業の振興・集積を図るため、平成17年度から「うつくしま次世代医療産業集積プロジェクト」を実施し、その具体的な取り組みが、福島県内外の産学官組織が連携協力して開催する「メディカルクリエーションふくしま2012」であり、大震災から立ち上がり「新生ふくしま」を創るべく復興元年に相応しく「新たな価値を探そう。きっと見つかる。明日の医療イノベーションはふくしまから!」をテーマに開催しました。

当財団は、地域間産業交流支援事業として、韓国 原州医療機器産業クラスターブースを3年連続で設け、日韓の技術交流を図りました。また、韓国医療機器セミナーとして、韓国江原発展研究院 研究委員 金 石中博士による講演会を開催し、日韓共同開発促進のため、本開催を盛り上げました。



日韓ブース内掘削知事来訪



開会式テークバック

### セミナー内容【最新技術セミナー】

- MDI認定セミナー「本国産医療機器の改良改善はどう進めればよいか 成 功事例から学ぶ」
- 韓国医療機器セミナー「日韓共同医療機器開発に向けた取り組みについて」
- 出展企業限定セミナー「医療機器メーカーと異分野企業の技術マッチング促進に向けて」
- 「アメリカにおけるベンチャー企業 成功の秘訣と日本への提言」
- 「原材料・部材供給はどう進めればよいか ものづくり企業に期待すること」
- 「OEM受注企業に期待すること」
- 「出展企業限定ワークショップ」(異業種企業が事業化を成功させるために必要なこと～総合討論～)

## こおりやまユニバーサルデザインものづくりフェア2012

開催日 平成24年11月22日(木)～23日(金)  
場 所 ビッグパレットふくしま  
来 場 約6,000名

主 催 郡山商工会議所 工業委員会 工業部会  
共 催 郡山市・(公財)郡山地域テクノポリス推進機構 郡山地域テクノポリス推進協議会・NPO法人 ふくしまユニバーサルデザイン

今年度は、38ブースの個人、企業、団体と5ブースの飲食関係企業、団体が出展致しました。作り手・使い手の気持ち、使い手が感じる「ものづくり」の心配り。2つの立場からユニバーサルデザインをみつめ、世代、性別、障がい視野に入れたテーマでものづくりが体験できたイベントでした。

初日は開会式、UDワークショップ、福島県広告大賞表彰式、ミニオペラコンサート、デザイン賞結果発表、表彰式が行われました。2日目は、ミニオペラコンサート、安積第一小学校、安積中学校の合唱、再生可能エネルギーセミナー、世界パンチイスコンサート表彰式、J&O form サーカス、大道芸、UDファッションショー等、沢山のイベントも開催され2日間の入場者数は約6,000人。大変、盛況な開催となりました。



開会式



テクノポリスブース



安積第一小学校合唱

### イベント内容

- 「共遊玩具」目や耳の不自由な子供たちと一緒に楽しめる玩具の体験をしました。…協力:(株)タカトミー
- 「福島県広告大賞表彰式」
- 「ミニオペラコンサート」オペラ歌手が歌う、おなじみのオペラの名曲の数々を楽しみました。…協力:藤原歌劇団
- 「デザイン賞結果発表・表彰式」
- 「合唱発表」安積第一小学校の子供たちの合唱を楽しみました。
- 「再生可能エネルギーセミナー」産総研福島拠点における再生可能エネルギーの研究開発の講演会が開催されました。…産業技術総合研究所 企画本部副部長 大和田野 芳郎氏
- 「世界パンチイスコンテスト表彰式」
- 「合唱発表」安積中学校の生徒のみなさんの合唱を楽しみました。
- 「J&O from サーカス・大道芸スペシャルステージ」日本を代表するヴォーカルグループ「サーカス」のメンバーの原順子と叶中央が2002年に結成したデュオユニット、夫婦ならではの息の合ったハーモニーと全国各地で活躍するプロの大道芸人(チンドン)が登場、会場を盛り上げました。…協力:(社)復興JAPAN
- 「UDファッションショー」誰にでもやさしい思いやりの服を体験しました。…協力:今泉女子専門学校
- 「介護食料理教室」フランス料理と日本料理の介護食について学びました。…日本調理技術専門学校 鹿野 正道氏(フランス料理主任教員) 大津 恵一氏(日本料理主任教員)
- 「スバル アイサイト 体験コーナー」スバル自動車の衝突防止システムの新技術、アイサイトを体験しました。…協力:スバル自動車



## 平成24年度 理事会等の開催報告

### 【(公財)郡山地域テクノポリス推進機構】

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

#### 【理事会】

- 第1回** ○日時 平成24年6月13日(水)  
○場所 インキュベーションセンター  
○内容 平成23年度  
事業報告及び決算等
- 第2回** ○日時 平成24年6月26日(火)  
○場所 インキュベーションセンター  
○内容 理事長及び常務理事の選定等
- 第3回** ○日時 平成24年8月13日(月)  
○場所 ビッグパレットふくしま  
○内容 評議員会の招集決議  
(決議の省略の方法による開催)
- 第4回** ○日時 平成25年3月21日(木)  
○場所 ビッグパレットふくしま  
○内容 平成25年度  
事業計画及び当初予算等

#### 【監査会】

- 日時 平成24年5月22日(火)  
○場所 ビッグパレットふくしま  
○内容 平成23年度 事業及び決算

#### 【評議員会】

- 第1回** ○日時 平成24年6月26日(火)  
(定時) ○場所 インキュベーションセンター  
○内容 平成23年度  
事業報告及び決算  
補充評議員2名及び任期満了に伴う理事・監事の選任等
- 第2回** ○日時 平成24年7月6日(金)  
○場所 ビッグパレットふくしま  
○内容 一時借入に伴う借入限度額の設定  
(決議の省略の方法による開催)
- 第3回** ○日時 平成24年8月30日(木)  
○場所 ビッグパレットふくしま  
○内容 補充監事1名の選任  
(決議の省略の方法による開催)

## 平成25年度の主な事業・イベント

### 会議関係

- 【5月】・平成24年度決算監査  
・第1回評議員会(上旬)
- 【6月】・第1回理事会(中旬)  
・定時評議員会(下旬)
- 【7月】・郡山地域産業支援機関連絡会議
- 【3月】・第2回理事会

### アライアンス・研究会

- 【6月】・アライアンス役員会・総会
- 【7月】・第1回  
再生可能エネルギー・環境共生推進研究会  
・第1回  
医療・福祉機器等関連事業創出研究会
- 【9月】・第1回  
機能性材料・製造プロセス研究会
- 【10月】・第2回  
再生可能エネルギー・環境共生推進研究会
- 【11月】・第2回  
機能性材料・製造プロセス研究会
- 【12月】・第2回  
医療・福祉機器等関連事業創出研究会
- 【2月】・アライアンス全体会

### 事業

- 【4月】・助成事業第1回公募  
(4/1～5/31)
- 【7月】・技術等審査委員会
- 【8月】・マイスターズ・カレッジ受講生募集開始  
・ちびっこマイスターズ・カレッジ  
・インキュベーションセンター  
入居者審査委員会
- 【10月】・マイスターズ・カレッジ2013  
(10月～12月)  
・助成事業第2回公募  
(10/1～11/30)  
・メディカルフリーゼーション  
ふくしま2013 (10/30～31)
- 【11月】・第14回産学官連携フォーラム  
・再生可能エネルギー  
産業フェア2013
- 【12月】・インキュベーションセンター  
入居企業成果発表会
- 【1月】・平成26年  
テクノポリス新春講演会  
・インキュベーションセンター  
入居者審査委員会
- 【2月】・技術等審査委員会

### ニューメディアコミュニティ 総会・運営委員会

#### 協議会総会

- 日時 平成24年4月24日(火)  
○場所 インキュベーションセンター  
○内容 ・補充委員の選任・役員の  
選出について  
・平成23年度  
事業実績及び決算について  
・平成24年度 事業計画(案)  
及び予算(案)について

#### 郡山地域ITリエゾン機構 運営委員会

##### 第1回「郡山地域ITリエゾン機構」 運営委員会

- 日時 平成24年5月18日(金)  
○場所 インキュベーションセンター  
○内容 ・平成23年度  
事業報告・決算について  
・平成24年度  
事業計画(各事業方針)  
・予算について

##### 第2回「郡山地域ITリエゾン機構」 運営委員会

- 日時 平成25年2月27日(木)  
○場所 インキュベーションセンター  
○内容 ・平成24年度 事業報告  
及び決算(見込み)について  
・平成25年度 事業計画(案)  
及び予算(案)について

### ニューメディアコミュニティ 平成25年度の 主な事業・イベント

- 【4月】 総会
- 【5月】 ワークショップ
- 【6月】 セミナー
- 【7月】 講演会
- 【7月】 ワークショップ
- 【9月】 ワークショップ
- 【11月】 産学官連携フォーラム
- 【11月】 IT交流プラザ
- 【1月】 ICTリーダー研修講座
- ※その他、運営委員会、事業部会等を必要に応じて開催予定

## 役員・職員等の紹介

### 公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構 役員

【任期：平成24年6月26日～平成26年6月定時評議員会】 平成25年5月10日現在(順不同・敬称略)

理事長	丹治 一郎	郡山地域テクノポリス推進協議会長 郡山商工会議所会頭
常務理事	熊田 正治	郡山商工会議所常務理事
理事	福井 邦顕	福島県経営者協会連合会長
理事	渋谷 重二	郡山地区商工会広域協議会長 富久山町商工会長
理事	岩谷 幸雄	郡山地域テクノポリス推進協議会副会長 玉川村商工会長
理事	出村 克宣	日本大学工学部長
理事	小沢 喜仁	福島大学副学長・地域連携担当
理事	小貫 正信	鏡石町産業課長
理事	瀬谷 寿一	石川町産業振興課長
理事	永林 正典	玉川村企画産業課長兼農業委員会事務局長
監事	目黒 芳裕	(株)大東銀行執行役員本店営業部長
監事	佐藤 哲郎	三春町産業課長

### 公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構 評議員

【任期：平成22年6月10日～平成26年6月定時評議員会】 平成25年5月10日現在(順不同・敬称略)

評議員	内藤 清吾	郡山商工会議所副会頭
評議員	作田 秀二	郡山商工会議所工業部会長
評議員	西川 茂	須賀川商工会議所工業部会長
評議員	竹中 豊文	日本大学工学部教授
評議員	竹内 誠司	(株)東邦銀行常務取締役郡山営業部長
評議員	片桐 一夫	東北電力(株)郡山営業所長
評議員	長門 昭夫	(公財)福島県産業振興センター理事長
評議員	古田 孝	福島県商工労働部再生可能エネルギー産業推進監兼次長
評議員	飛木 孝久	須賀川市産業部長
評議員	八代 博昭	郡山市商工観光部長

### 郡山地域ニューメディア・コミュニティ 事業推進協議会委員

平成25年4月25日現在(順不同・敬称略)

会長	丹治 一郎	(公財)郡山地域テクノポリス推進機構 理事長
副会長	出村 克宣	日本大学工学部長
委員	長谷部一雄	須賀川商工会議所 会頭
委員	渋谷 重二	郡山地区商工会広域協議会長
委員	岩谷 幸雄	玉川村商工会長
委員	阿部 晃造	郡山商工会議所 工業委員長
委員	天童 敏明	(株)NTT東日本一福島 郡山支店長
委員	鈴木 正博	(株)福島情報処理センター 代表取締役社長
委員	酒井 良信	(株)エフコム 代表取締役社長
委員	水上 哲夫	(有)ばすわーど 代表取締役
委員	大山 一浩	福島県企画調整部情報政策課長
委員	菅原 晋也	福島県商工労働部産業創出課長
委員	大越 正弘	福島県ハイテクプラザ副所長
委員	筋内 研一	郡山市総合政策部長
委員	飛木 孝久	須賀川市産業部長
委員	小貫 忠男	鏡石町総務課長
委員	瀬谷 寿一	石川町産業振興課長
委員	永林 正典	玉川村企画産業課長
監事	八代 博昭	郡山市商工観光部長
監事	斎藤 隆	郡山商工会議所 常務理事

### 郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会 運営委員会委員

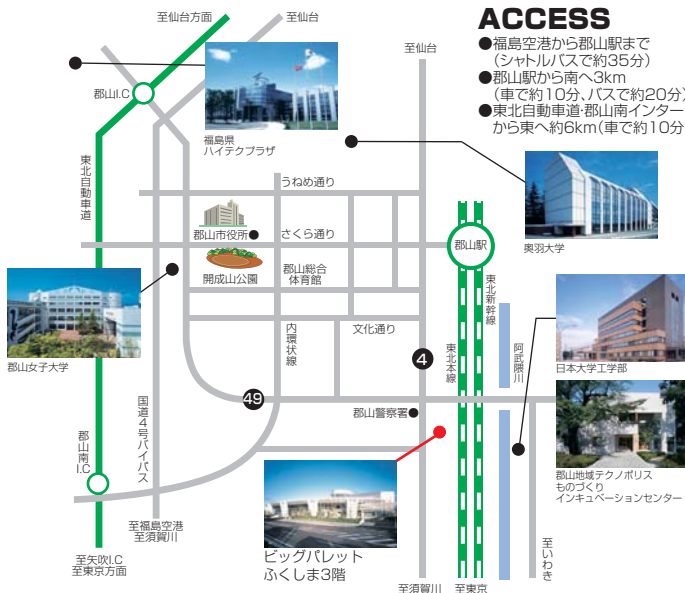
平成25年5月15日現在(順不同・敬称略)

委員長	杉山 安洋	日本大学工学部情報工学科 教授
委員	水上 哲夫	(有)ばすわーど 代表取締役
委員	水野 和彦	(有)ミズノ製作所 代表取締役
委員	本田 啓之	(株)コンピュータシステムハウス 代表取締役専務
委員	藤田 和浩	(株)福島情報処理センター 郡山システム部長
委員	斎藤 正弘	(株)エフコム 副本部長
委員	仁井田 聡	福島県商工労働部産業創出課 主任主査
委員	畠中 秀樹	郡山市総合政策部情報政策課長
委員	柳沼 政秀	須賀川市産業部商工労政課長
委員	小貫 忠男	鏡石町総務課長
委員	瀬谷 寿一	石川町産業振興課長
委員	永林 正典	玉川村企画産業課長

### (公財)郡山地域テクノポリス推進機構・事務局

平成25年4月8日現在

常務理事兼事務局長	熊田 正治	郡山商工会議所会頭
事務局次長兼総務部長	安藤 徹	福島県OB
企画管理課長	小松 信一	郡山市派遣
技術振興課長	佐久間直也	須賀川市派遣
新事業支援課長	高橋 信行	大東銀行出向
インキュベーションマネージャー兼技術コーディネーター	宮越 稔	
技術コーディネーター	佐藤 彰	
起業支援員	池浦 清一	
技術指導員(非常勤)	中井 浩二	
情報支援総務担当	村上 瑞恵	
(郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会)		
本部総務担当	鈴木 琴子	
インキュベーションセンター総務担当	久保田江美	



お問い合わせ／ご相談はお気軽にご連絡ください

### 編集／発行

公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構／郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会

〒963-0115 福島県郡山市南二丁目52番地 ビッグパレットふくしま3階 TEL.024-947-4400/FAX.024-947-4475

E-mail techno@nm.net6.or.jp URL http://www.techno-media.net6.or.jp/



紙ヘリサイクル可 この印刷物は、印刷用の紙ヘリサイクルできます。

この印刷物は、FSC®認証紙と環境にやさしい植物油インキを使用しています。